

ADULT ONLY
成年向
COMIC

庵野秀明
本人查定付



庵野専用

1996



基本的に
エヴァの
同人誌とは

又けなりね

ヒビキ
カト7



はあ 又けなりですか

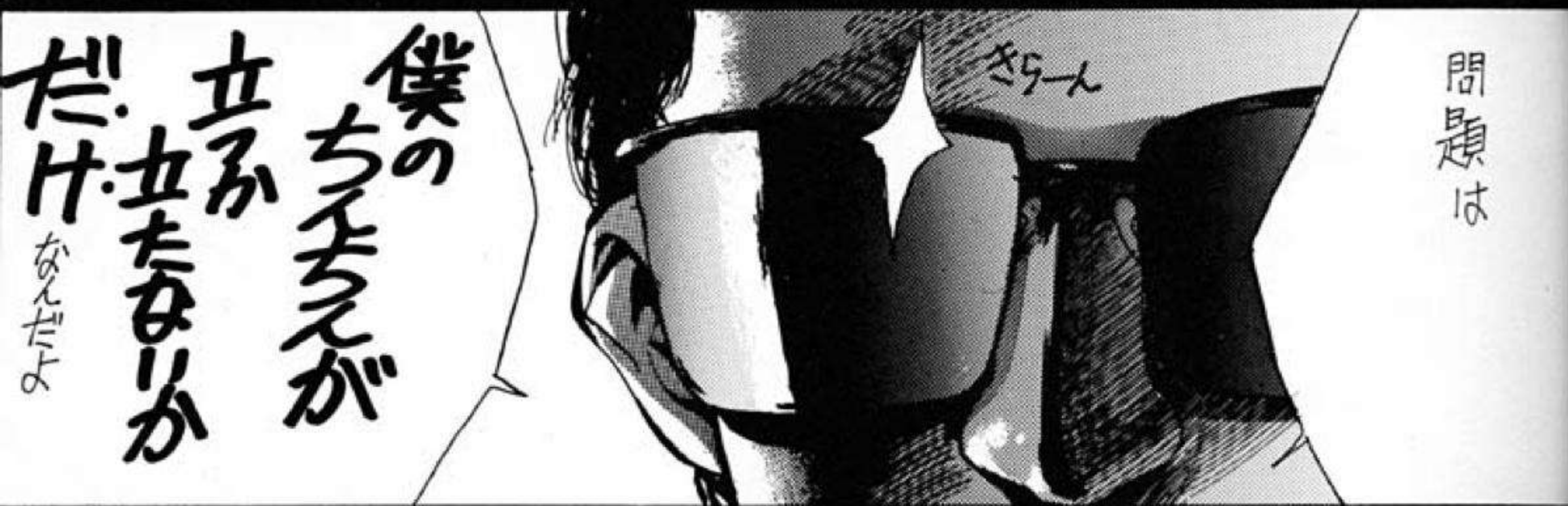
あ、でも君の
同人誌は
ちよっとよかったね

ちよん
ヒビキ
ときました

でもあれじゃ
短いで握るトコまでは
りかなりね

はあ

希馬
ヒビキ



問題は

ヒビキ

僕の
ちよんが

立派
立派なりか

だけ
なんだよ

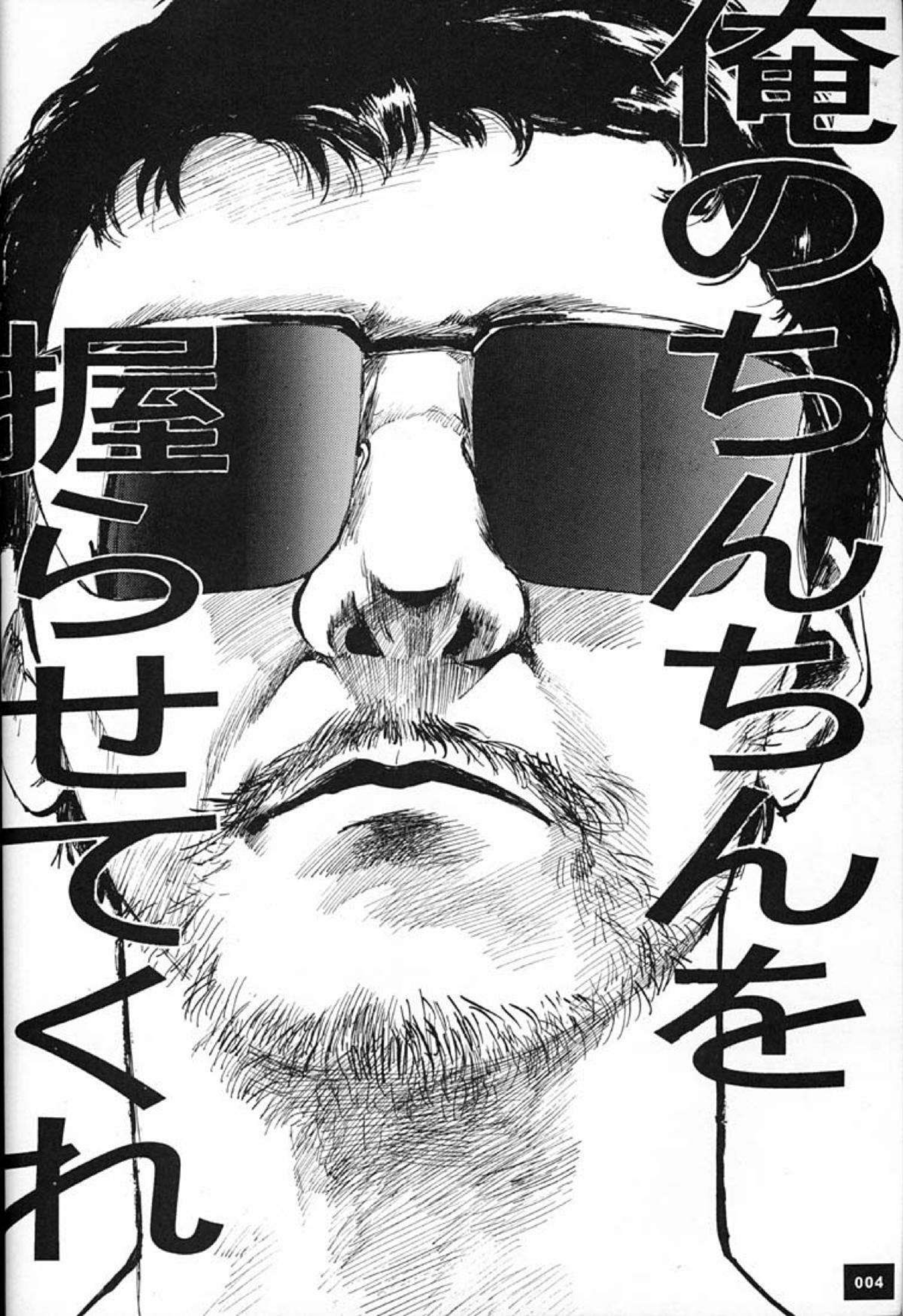


……じゃあ
前の同人のP.L.
長くしたら
使ってくれますか?

ああ、
使えますからね

使えたかどうが
と点数は
あがるよ

だから



了解いたしました…



庵野専用

- 003 ある日の監督
希有馬
- 007 .. 改訂版福音第三話 庵野専用
原作 二七渡辺ヒロシ 画 希有馬
- 056 庵野を又かせる方法
希有馬 & 二七渡辺ヒロシ
- 058 アスカ日記
二七渡辺ヒロシ
イラスト 希有馬
- 066 奥付

表

この同人誌は96'夏コミの希有馬屋の新刊 EVANGEL SECOND 掲載の漫画“ノルマ”を『こうすれば庵野秀明監督が使用してくれるのではないか?』というわれわれの憶測の元、“庵野専用”として補足、改訂したものです。しかしながら、同作品“ノルマ”は『鉛筆書きでとにかくページを増やし、物量で使えるようにする』という主旨の元に作られた実験作であり、その意図貫徹のためEVANGEL SECOND掲載分の原稿にはほとんど手を加えていません。

あしからずご了承ください。



改訂版福音第参話

庵野専用



おかしくな。N.M.O



まちがりなり
ドイツにいた時より
おかしくな。N.M.O

エヴァに
乗り始めて
ひどくな。N.M.O



私もアイツみたくに
かまのたろうかフ。
あんな人形みたりな
キー
んよー説じや
なりあま



私は私!!
私は選ばれた人間なの
世界になくはならなり
存在!

式号機ハロト



こゝは
使われたいな
トイレよ!!



なまのアンダー!



赤木博士から

これ

私が独りに
なりました時に
もみアタは
デリカシー・エモンが
なりのア!
タリタリマンタは—

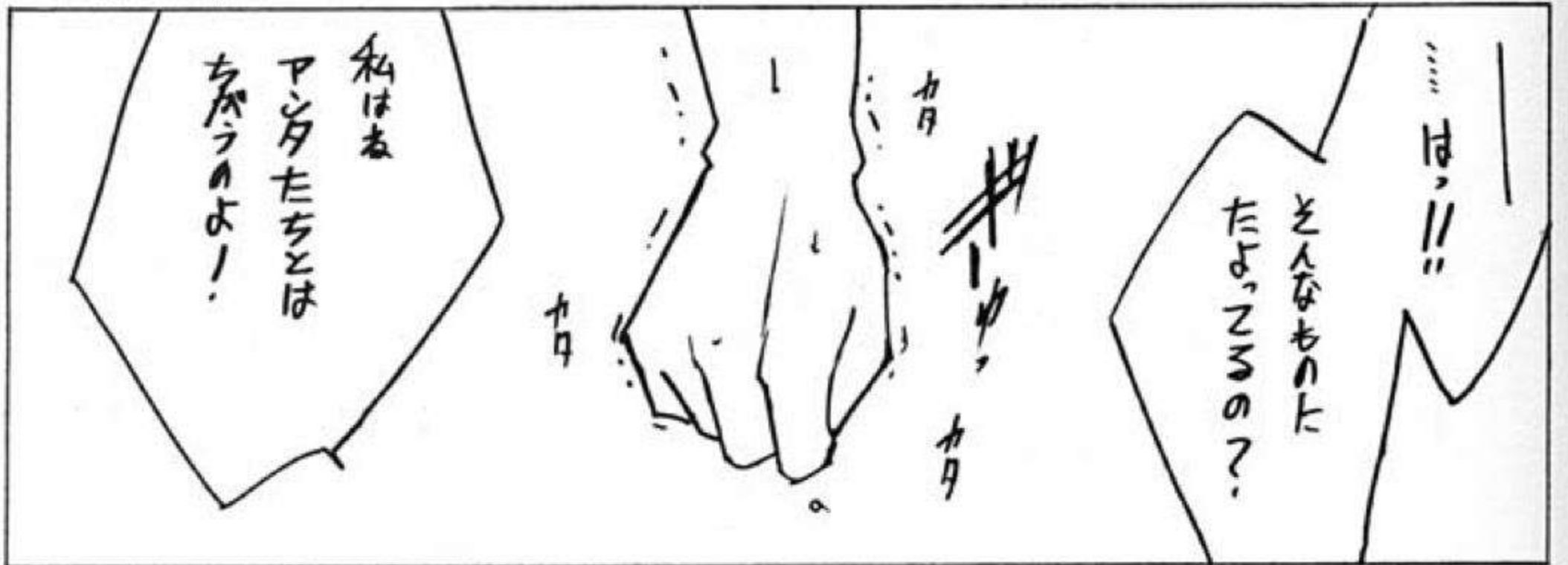


抗精神病薬!!
ハロペリドール



昨日、
起動実験を行ったから
ギリギリだから、さ——

本薬は分岐作用の薬



私はね
アムタたちは
ちがいのよ!

カク

カク

カク

……は!!
そんなものに
たよ、NMSの……



ドーパミン・リセプター阻害薬
A10神経の活性化を
抑制する。

私は最初の実験から
そんなもの打ったことす
かりあよ!

打つば
今の状態からはのがれろ

あなたたちはね

ごきぶちかうの!

でもA10神経は
抑制させる

*D2レセプター阻害薬の効力がある。しかし過度の使用は過剰性運動異常症をひきおこす。



おリップスに
負けたー！

そう



L.H.R.L.
：黄体ホルモンを放出ホルモン
L.C.L内部に含まれる
A10神経活性化成分
おんもは
リリアよ

オオタリに
リリアな男と
フグーネれば
リリアたひら

ドーセあの
馬鹿シンジとも
フグーネンでしよ

覚醒剤などの効果に
低い依存性……。



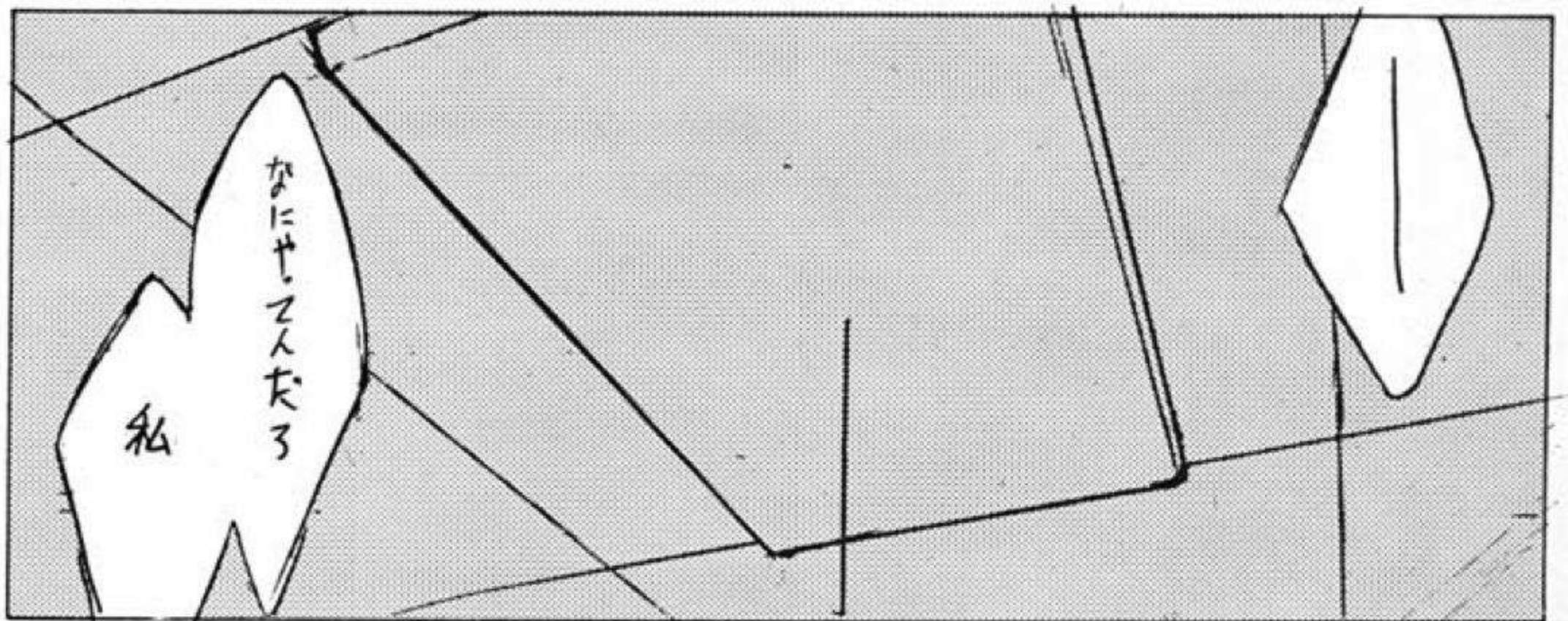
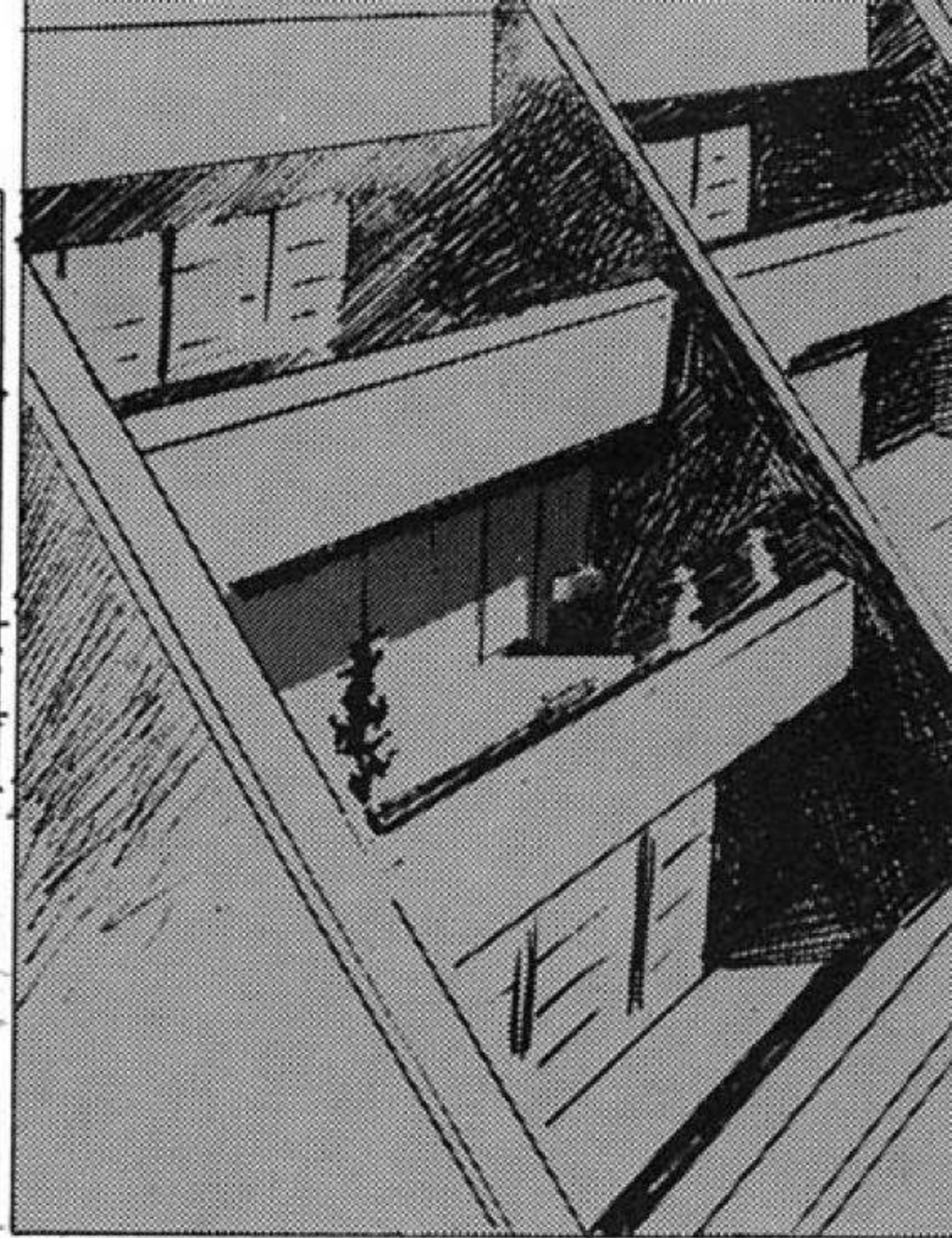
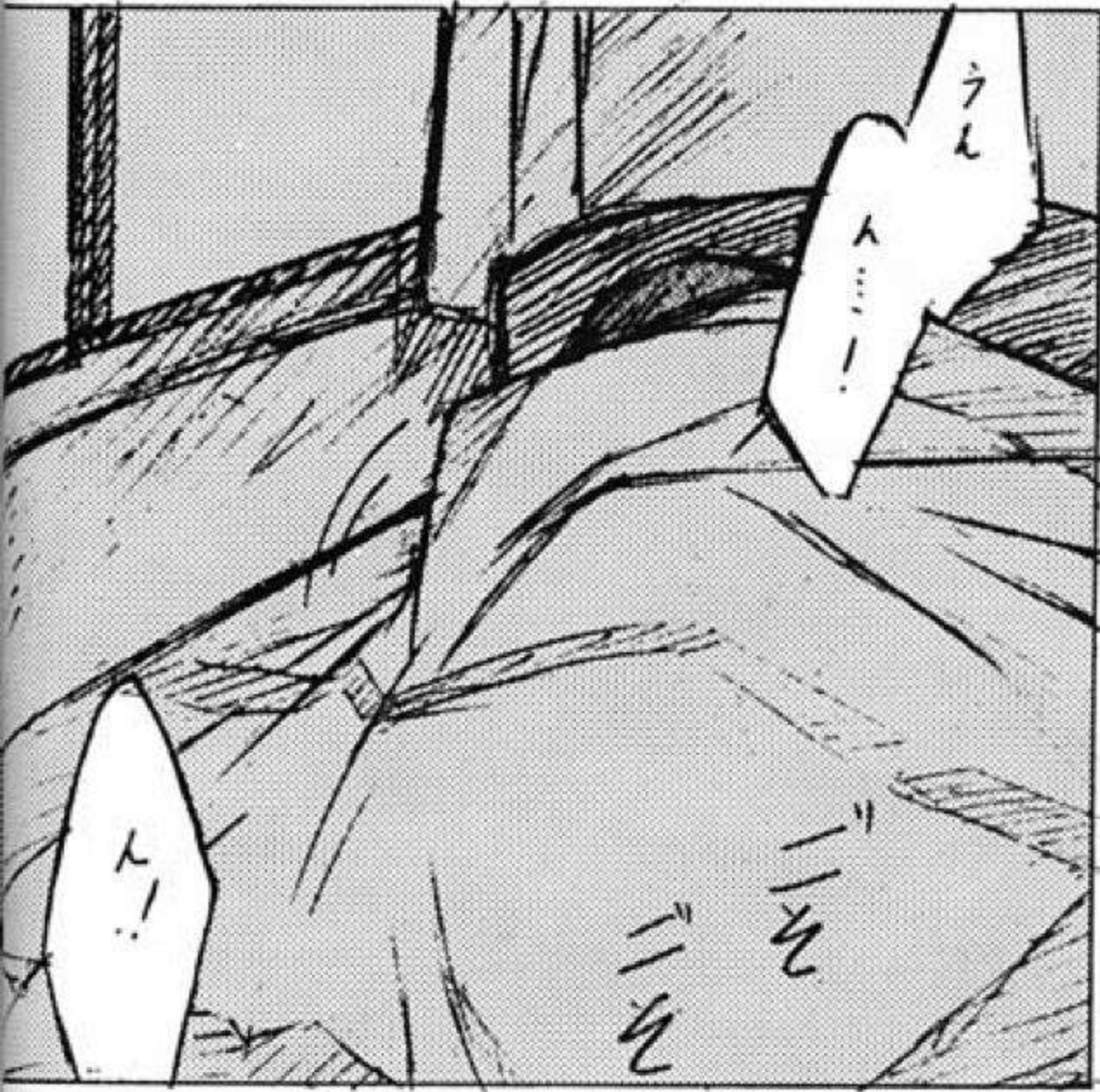
その唯一の副作用ー！

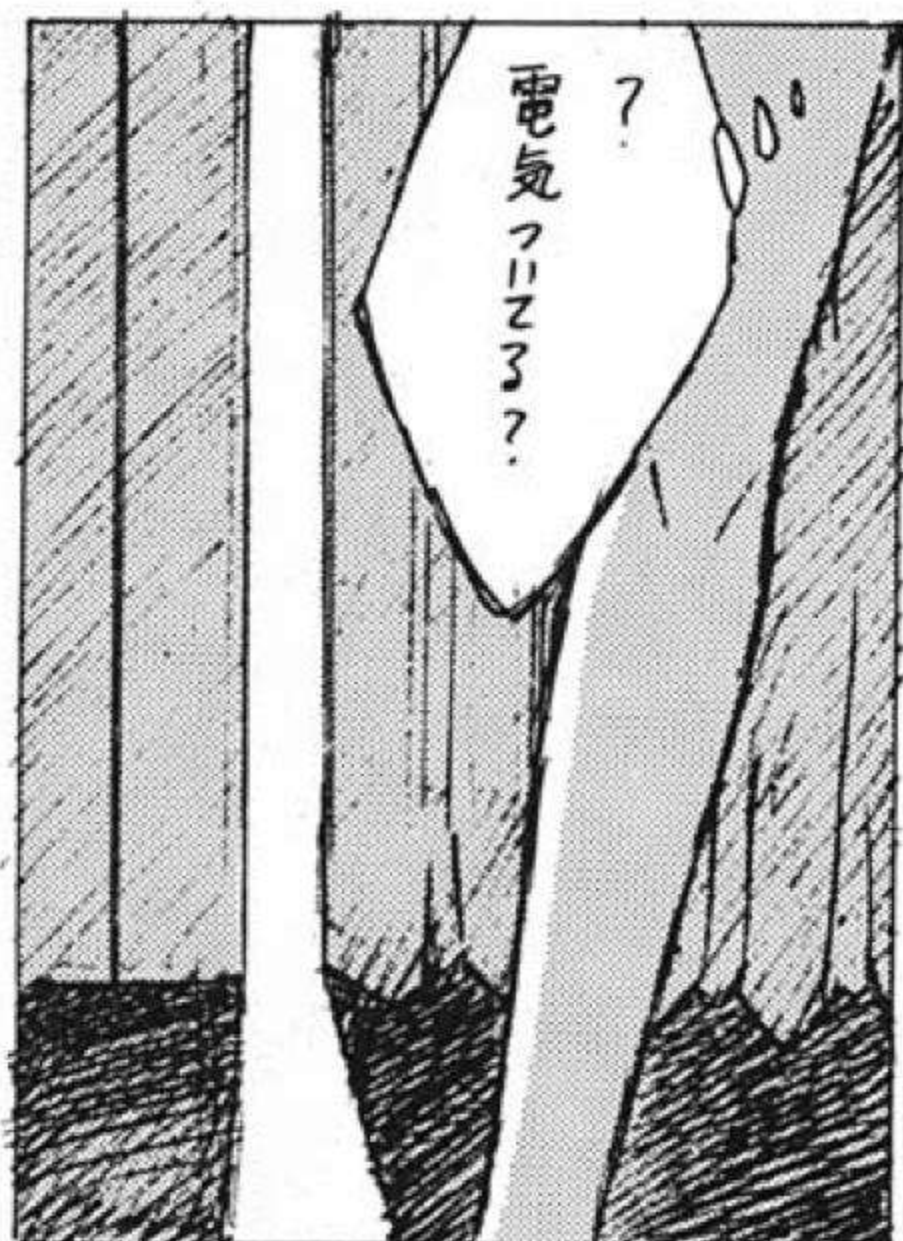
アタチ
ニ苦勞がなニとね

その唯一

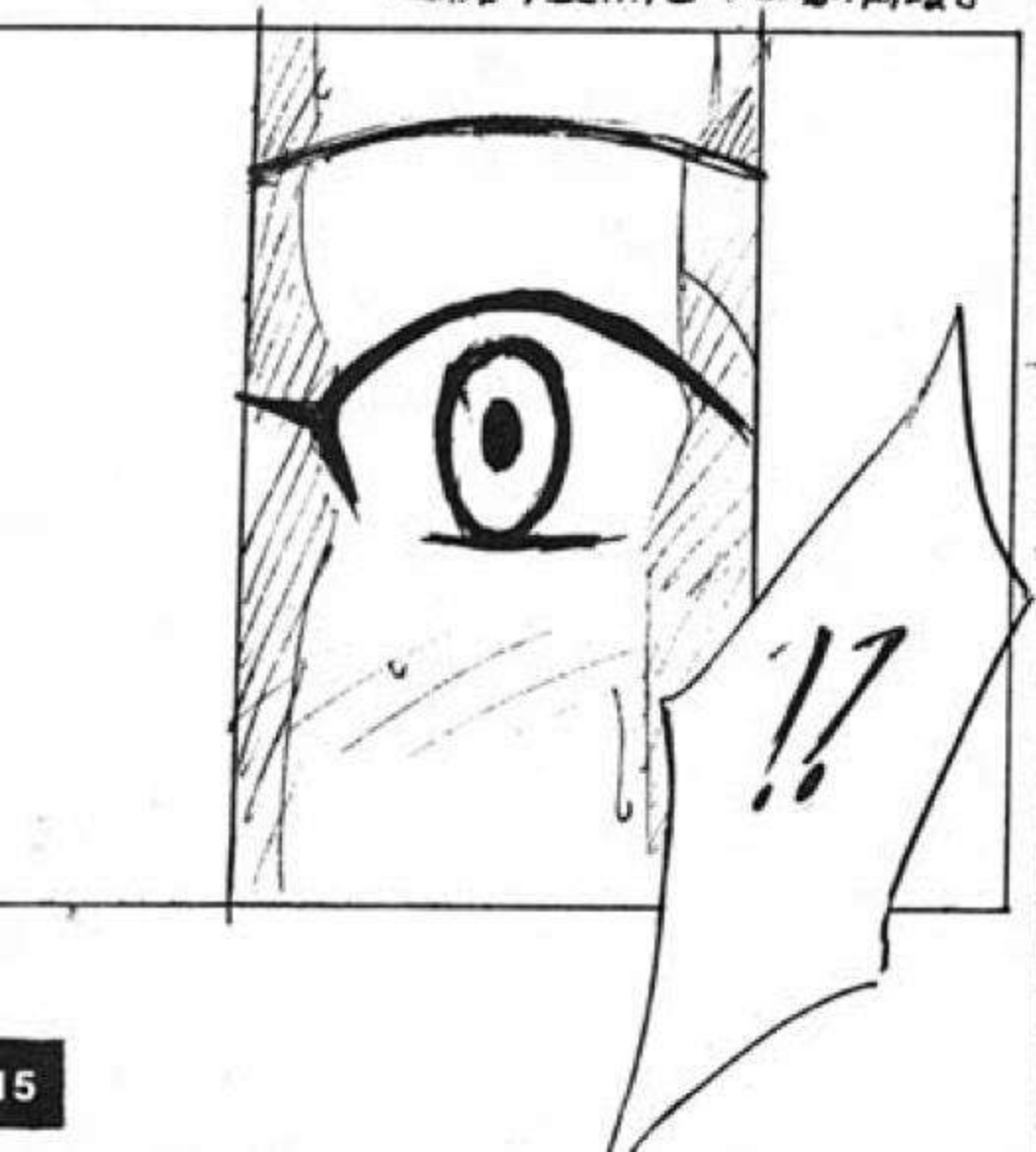
最大の副作用ー！







△おカサヒク1111とフワ場の前





あ？

はあ

はあ

はあ

はあ

しゅ

しゅ

しゅ

何サマスのよ
アイツ



あれ...

私のパンツ!?

はあ

はあ

はあ

あれ...
私のパンツ!?

今日
はリコたー

洗濯キに
入れといたヤツマ?



うそ!!!
能てくる??

なにか
考えんのおよ



毎晩おんなのコト
してたんか

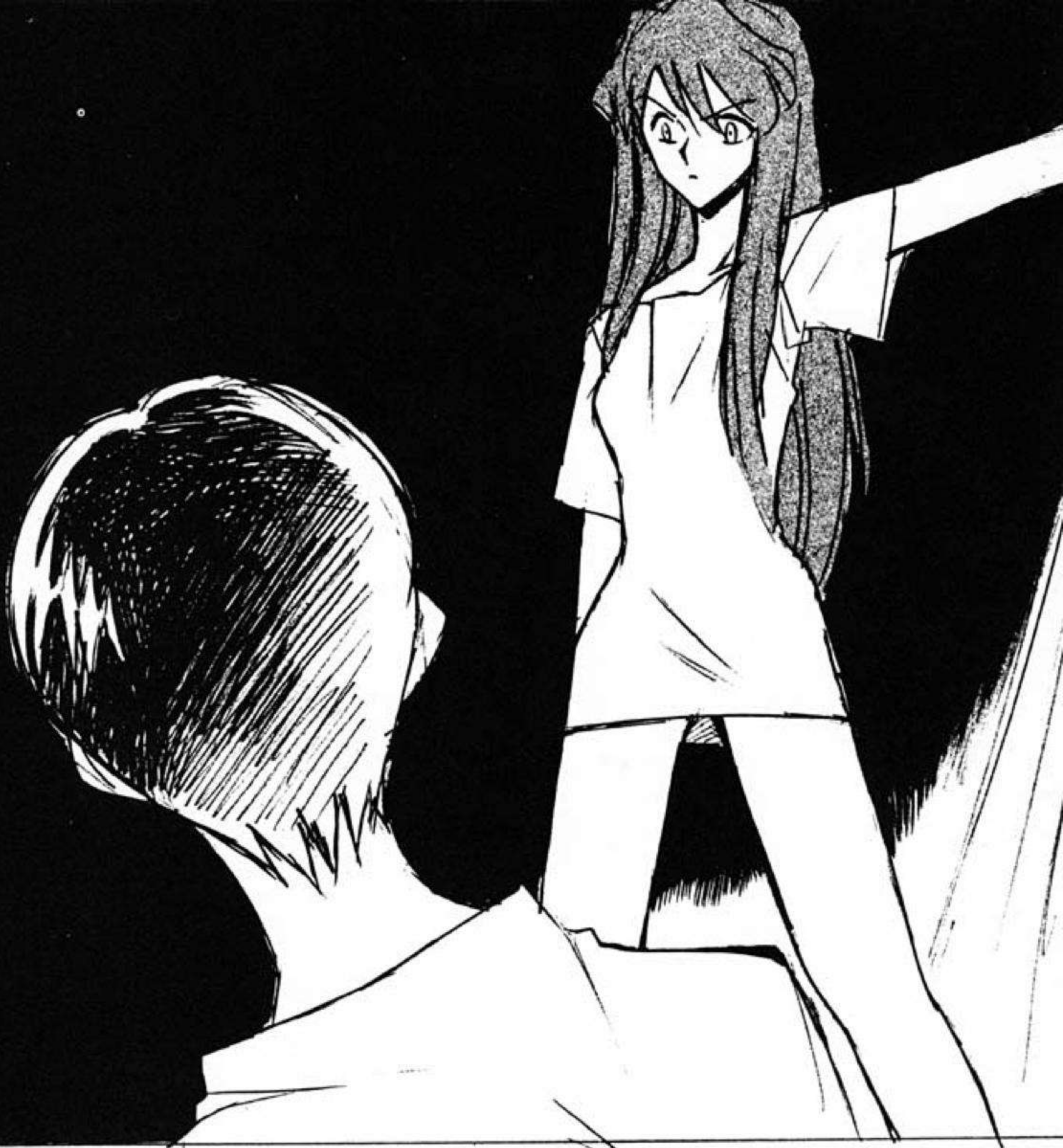
ハシタイよ

……ハシタイ

ハシ
ハシ

ハシ





アムタ

かにや・ズんのよ

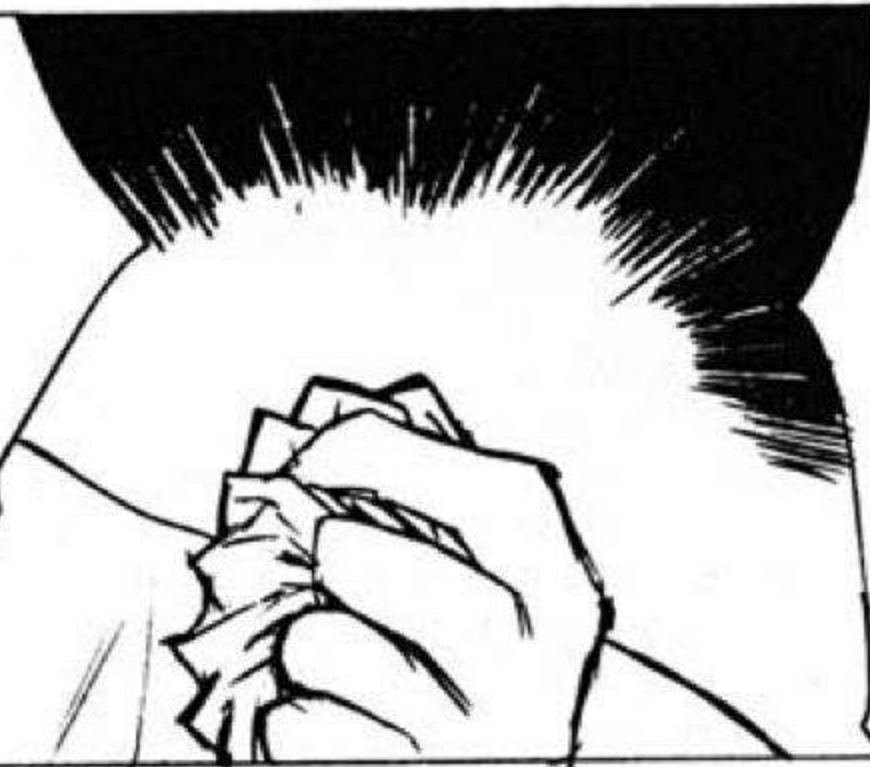
その
手にしてゐるのは
なんなの!?



え...
あ

アంతా ఇలాగే
నాకు తెలియదా?

考らあし!!!
信じらんない
フケツ!!!



今して来たコト
続けなヤリ
言ッたのよ!!!



え??

しこみなナニよ



ハハハハ
ヤリなヤリ
馬鹿シム!!!



あ...ごめ





毎晩毎晩
 コソコソ
 ハクハク

今まで
 私のパンツが
 ア、ウの汚リコソ
 ハクハクして
 せんぞ!!





汚れもので
オナニーするなんて
アムタ本物の
ヘンタイね



アムタまじか
踏まれて
喜んでんじやないぞしつね

キーン

キーン



どクソの
顔、あがりあよ



あー！



ほら
なんかリリカキニ
ヘンタイミンジ

あ！！





え!?

アミタが
考したんせから
アミタが
キレイにするのよ



あ...
でも...

早く
やんなすよ
馬鹿



の

カ

トトト



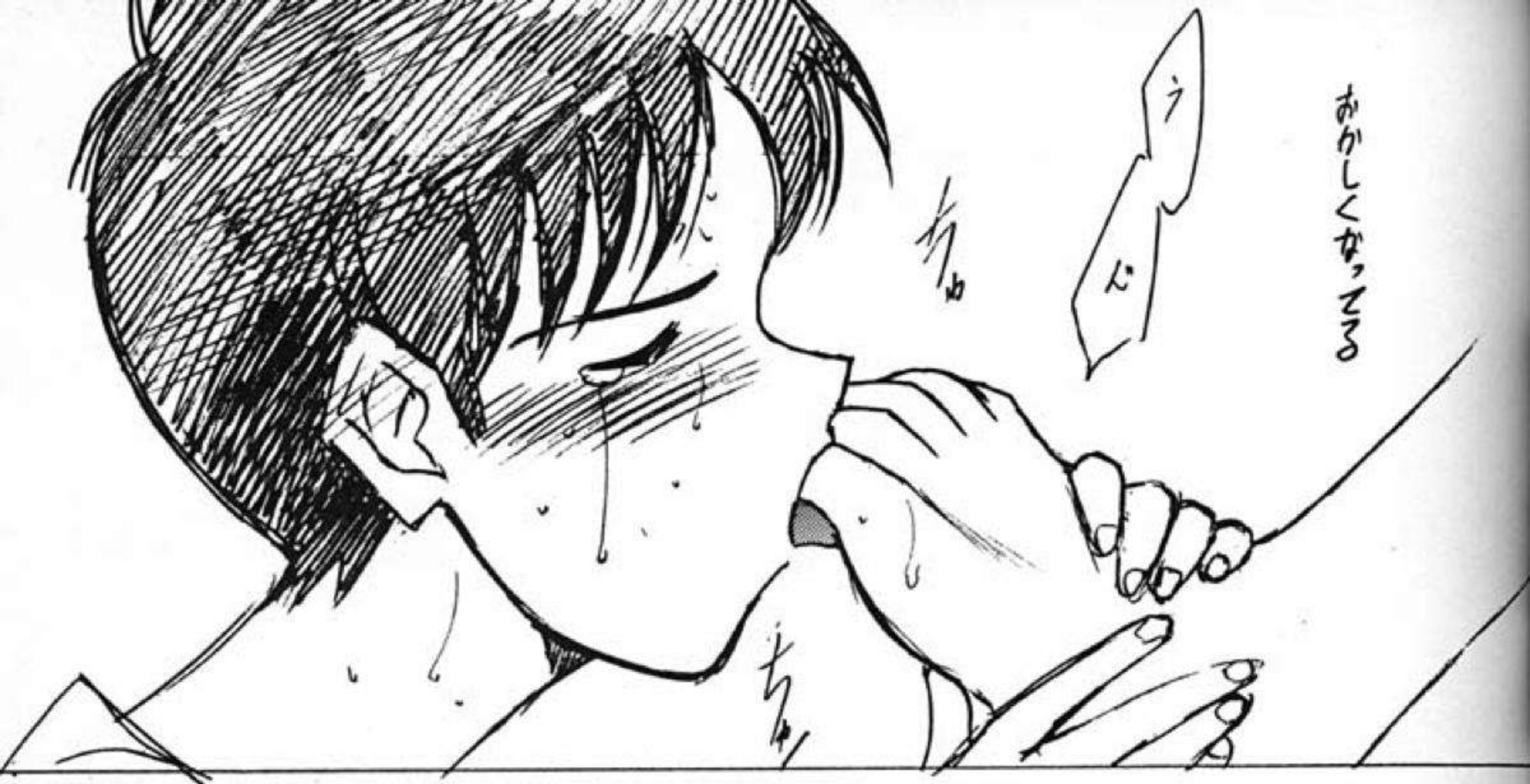
アタシのパンツは
餅めるんせから
ズキズキだよ!!

ズキズキ



トトトト





おかしな、NNO

あ

う
ん

あ



L.H.R.Hの
唯一最大の副作用——

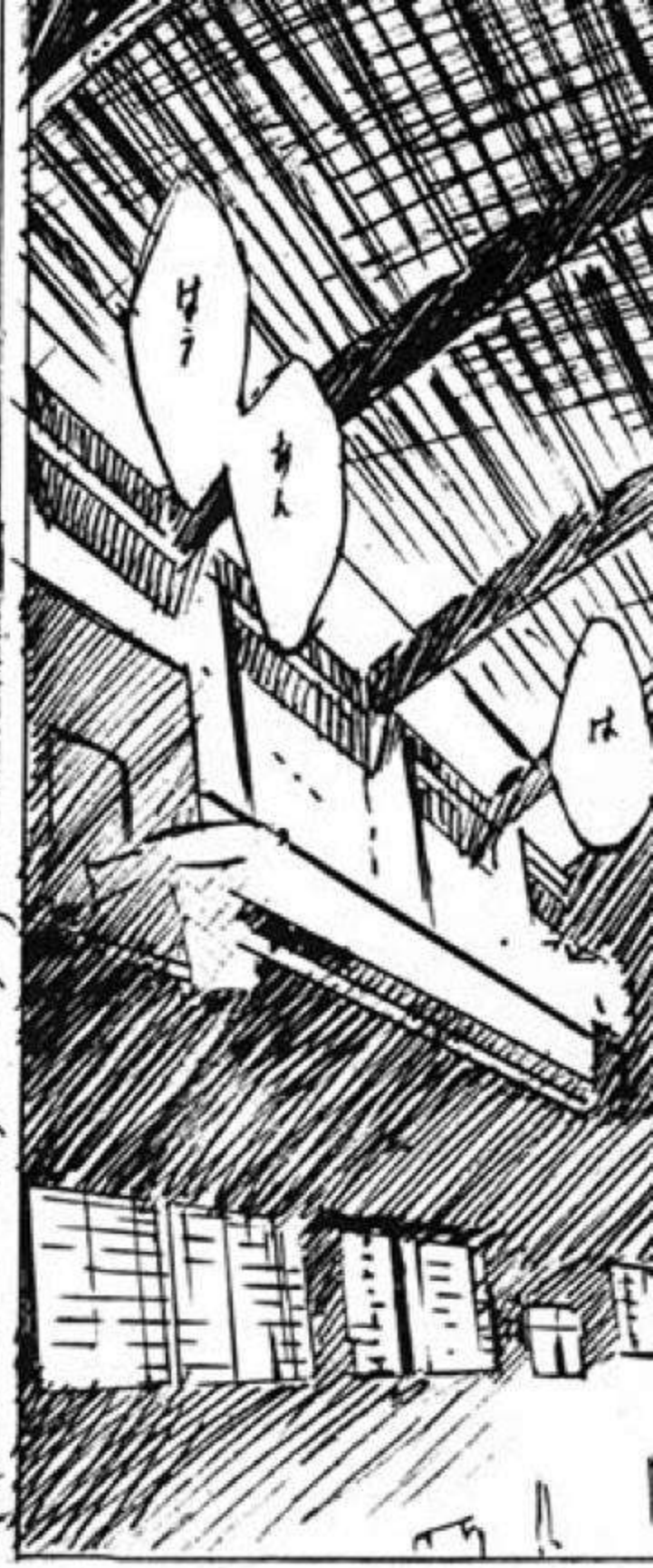
はあ

あ

おかしな、NNO——

しかも
だんだんひどくなる——

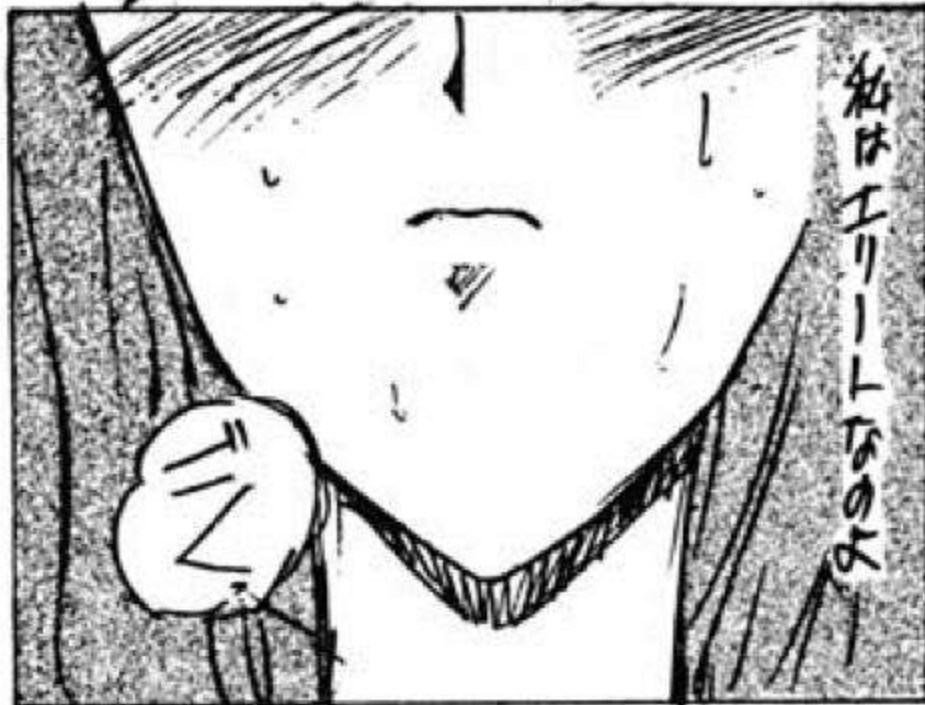
コイツモ——
アイツモ





ありがたう
綾波は
ち●ぽが大好きだから

副作用なんて
カンケーないわ



私はエリートです



あんな風に
なつたりして



早良ちゃん
碇、リハよ



あはか
早良の如前

あ・あ

うん

あ

あ



え？
あ、うん



サッーと

カキ

#考えなりの

早いんだけど



破クンニ
スゴイのよ

アスカは
またばかりだから
知らなりましたらうけど



うん...
本当
オニギリ

ほら

オニギリおニギリ

ほら

ほら

ほら

ほら

オニギリ

オニギリ

オニギリ



感じてるの？

あのニツの

SEXルン

...か木が

ほら

もう
オニギリにおり

オニギリ

全身に

汗がりちゃって

りゃ

ほら

ほら

かきりり



あう

あ・あ

あ

あ



獣—きたりで

すにりあよあ
あの二人

はあ

はあ

はあ



ああ

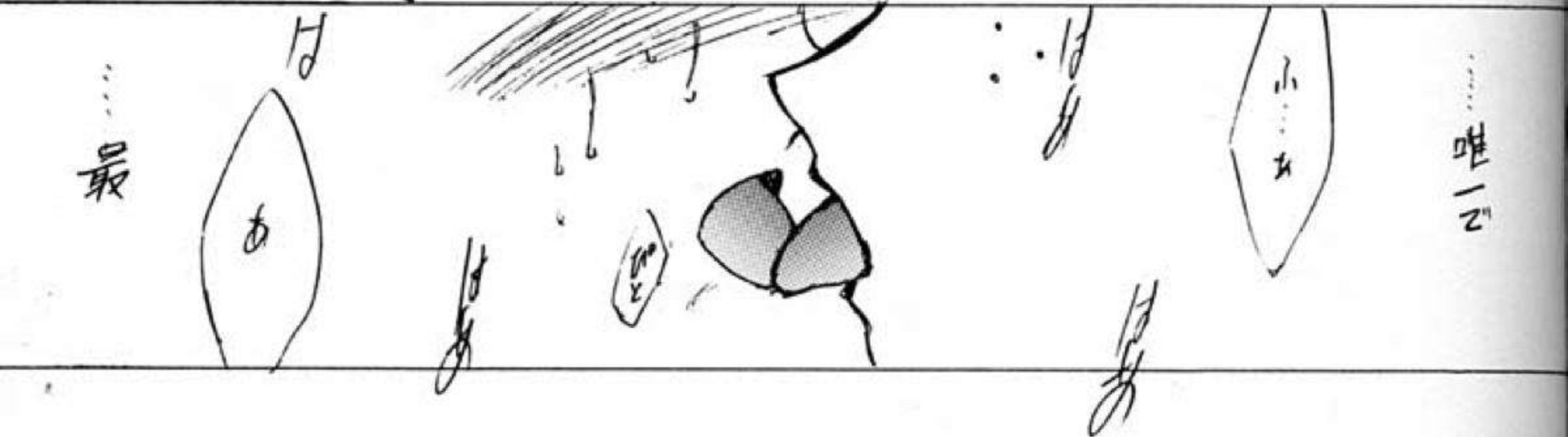
ああ

ああ

うあ

あ

あ



……最

あ

はあ

あ

はあ

はあ

小……

……唯









苦
アイツースなものを
あんなに

かおん

うあ

バカビョーなの



でも...
気まぐれいりのかなマ

カッガ

マ...アスカ

ふう

カッ!!

く...あ

ハッ

ロの中

びくびくするし

終、大団後中人? ビンカンに甘.23P42か?



気まぐれいりの...マ

アイツより

あ

ふう

ふう

ん

カッガ

じゃあ次は
誰か綾装使ラ?

ハッ
ハッ

注※海野カノはこころんがヨムセグイ2す。



何さ、
僕、これに甘んぐんだから
もっと開くんたよ

まあ
どうして来たよ
この女

感じてるんだ

ハッ



あーし
どんじゃ
入ってるよ

お尻フー

ゆき



おら

カッ

「お前の...」

グッ
ド
グ
グ

すめ味...



うあ

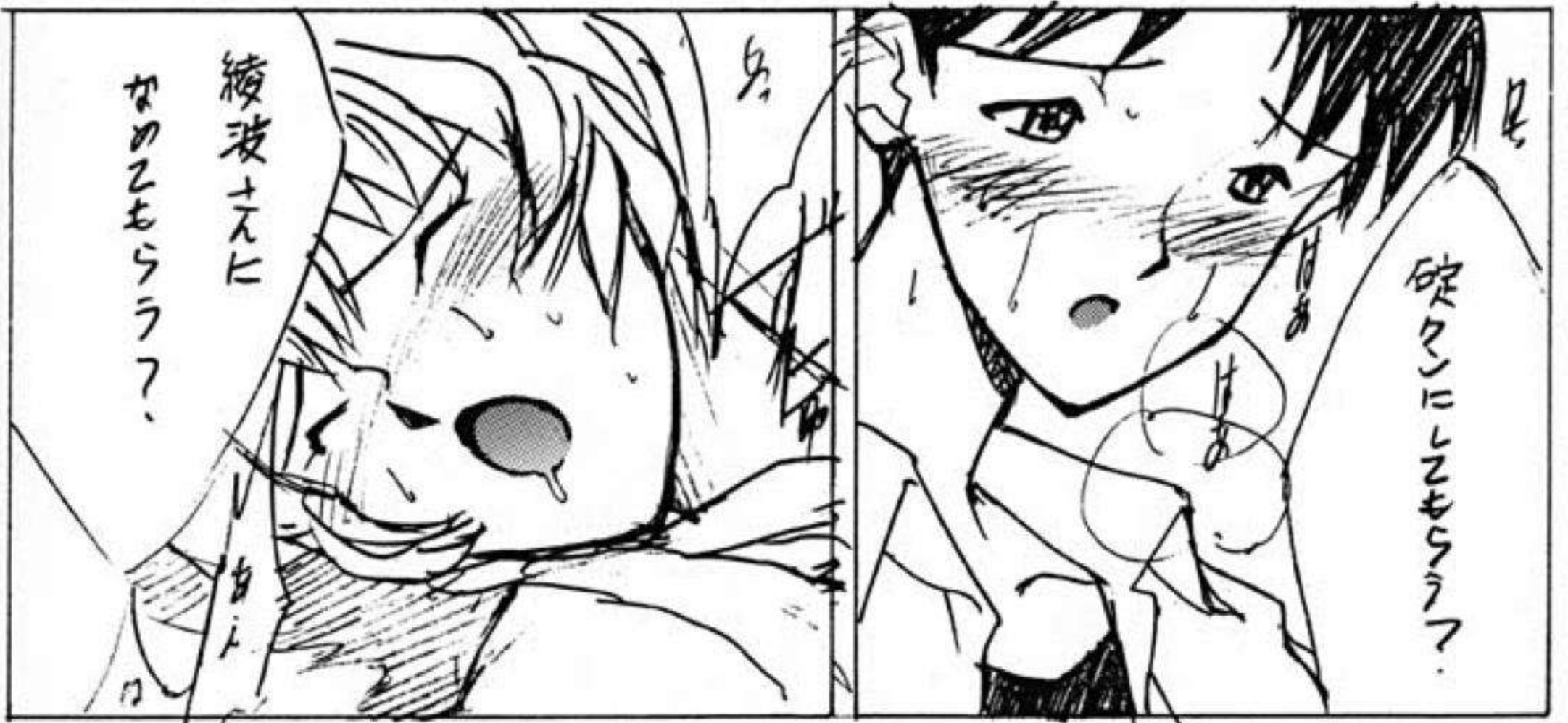


あーあ
キレイにする
だけで
よかったです



—すまじい…量

うあ



ごも私に

私は

私...

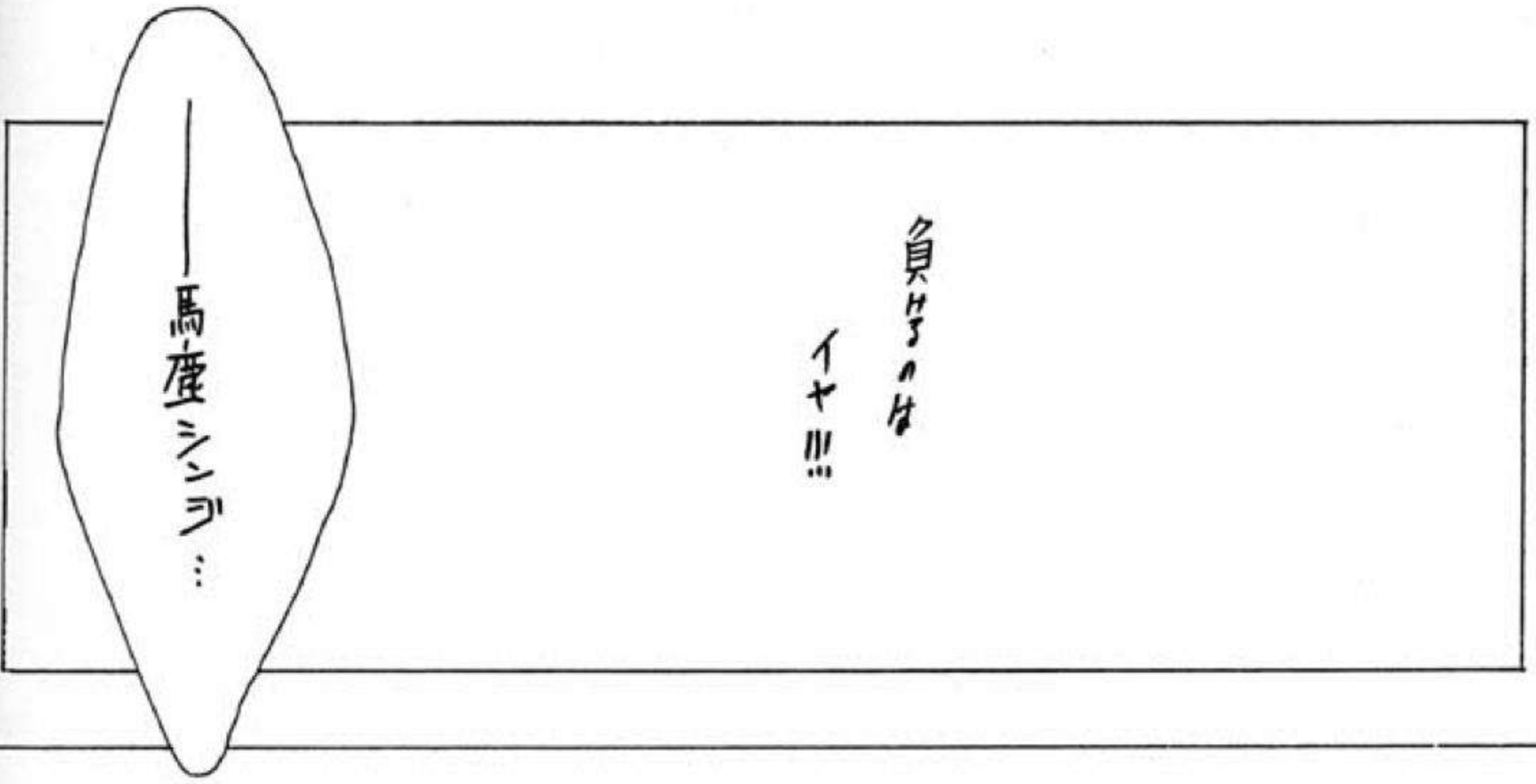
甲

ダメ!!

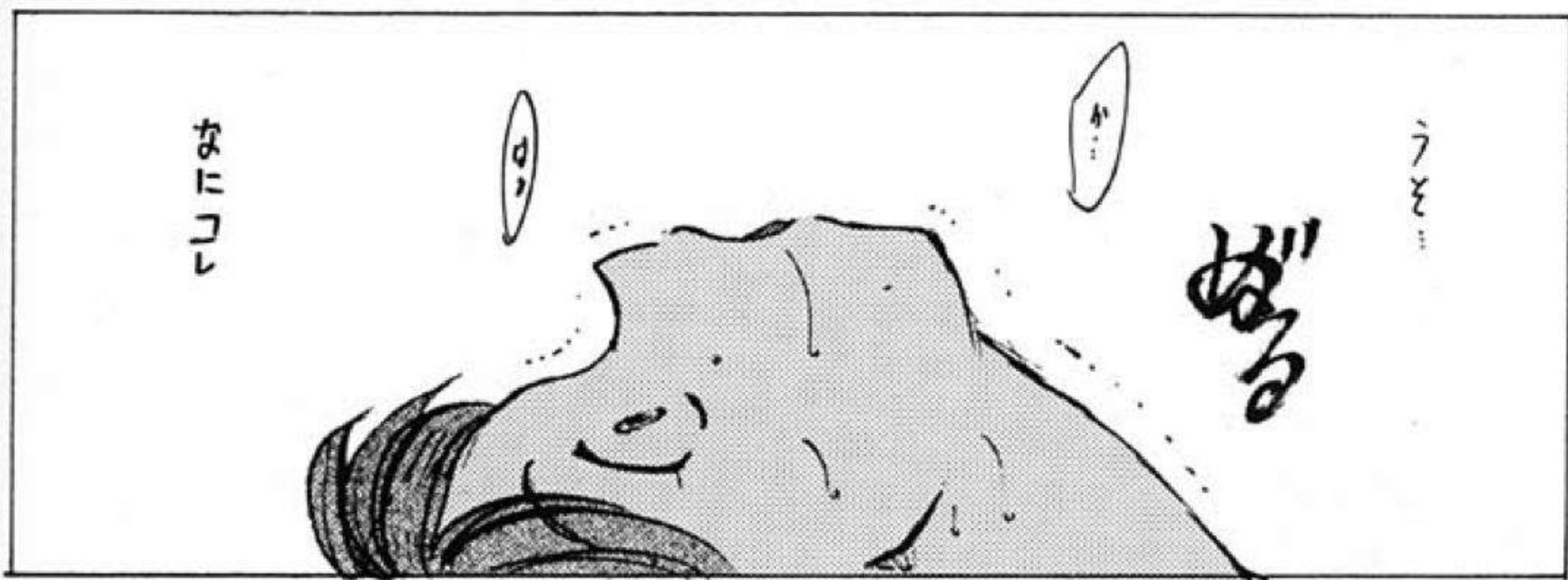
それは負け

負けるのはイヤ!

どうするの?



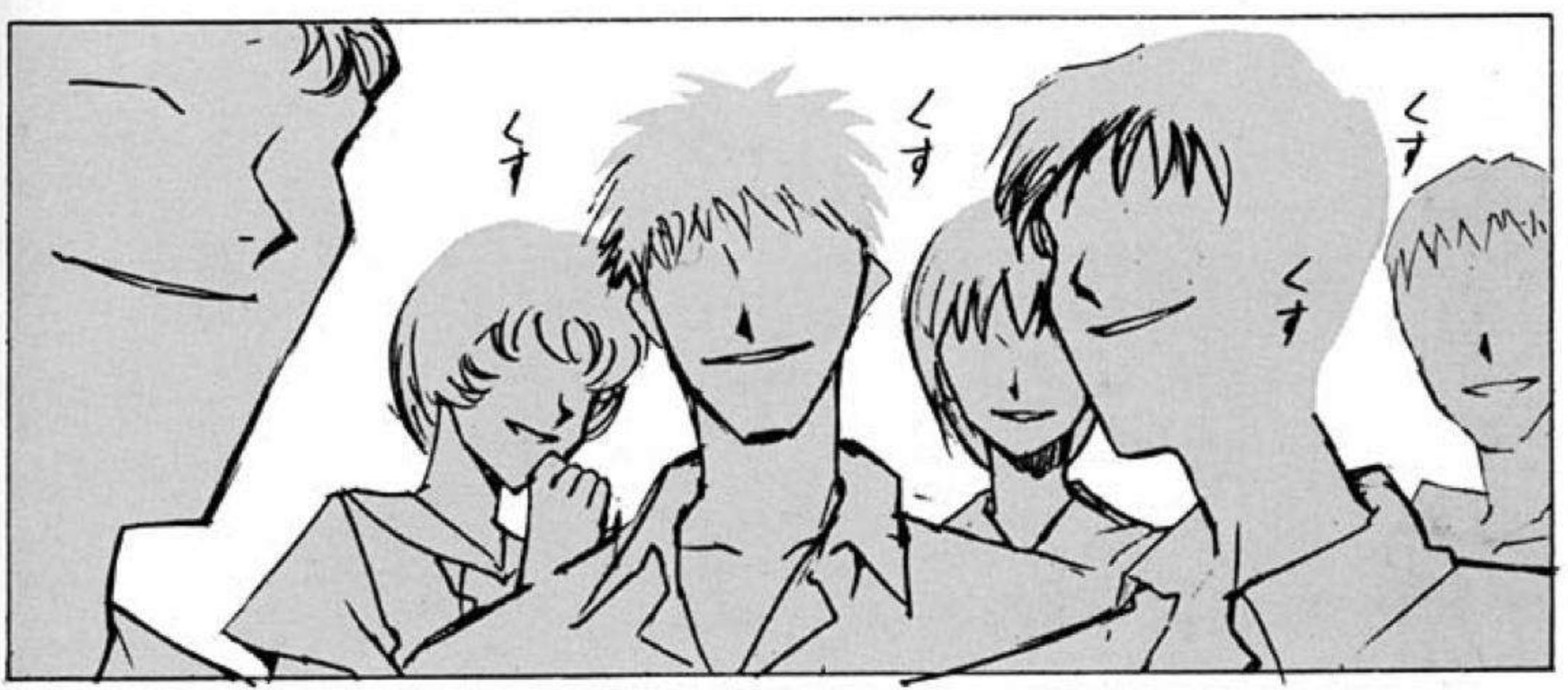
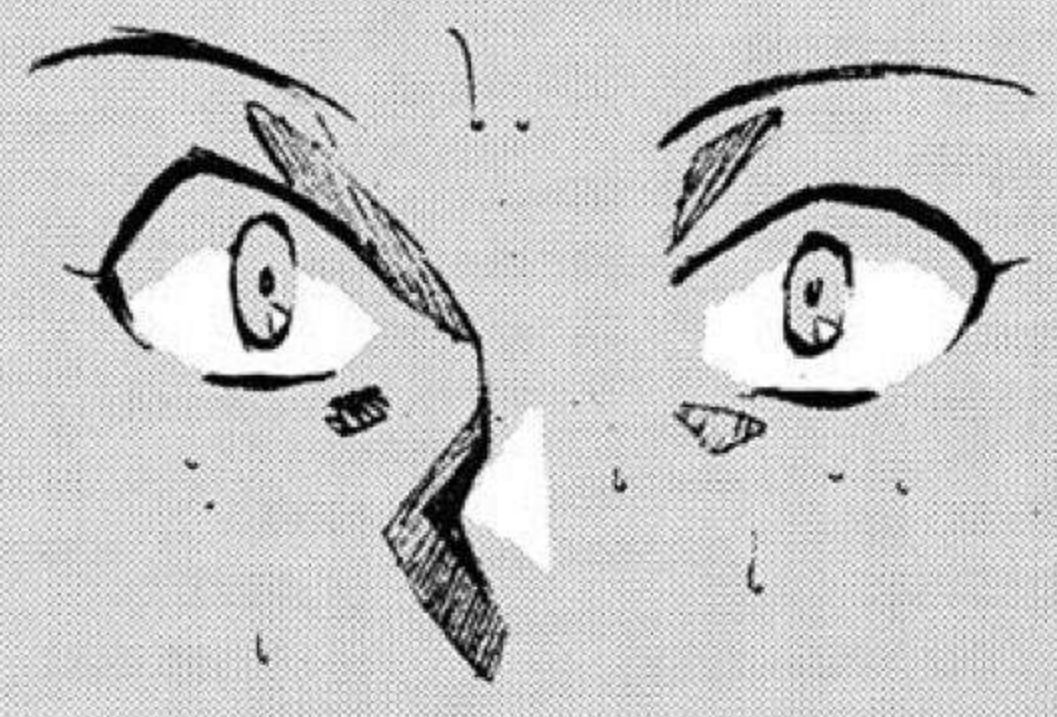






DEKANE

石川



人の前で
負けたのは——

負けたのは——

ダメ!!
みんなの前じゃ——

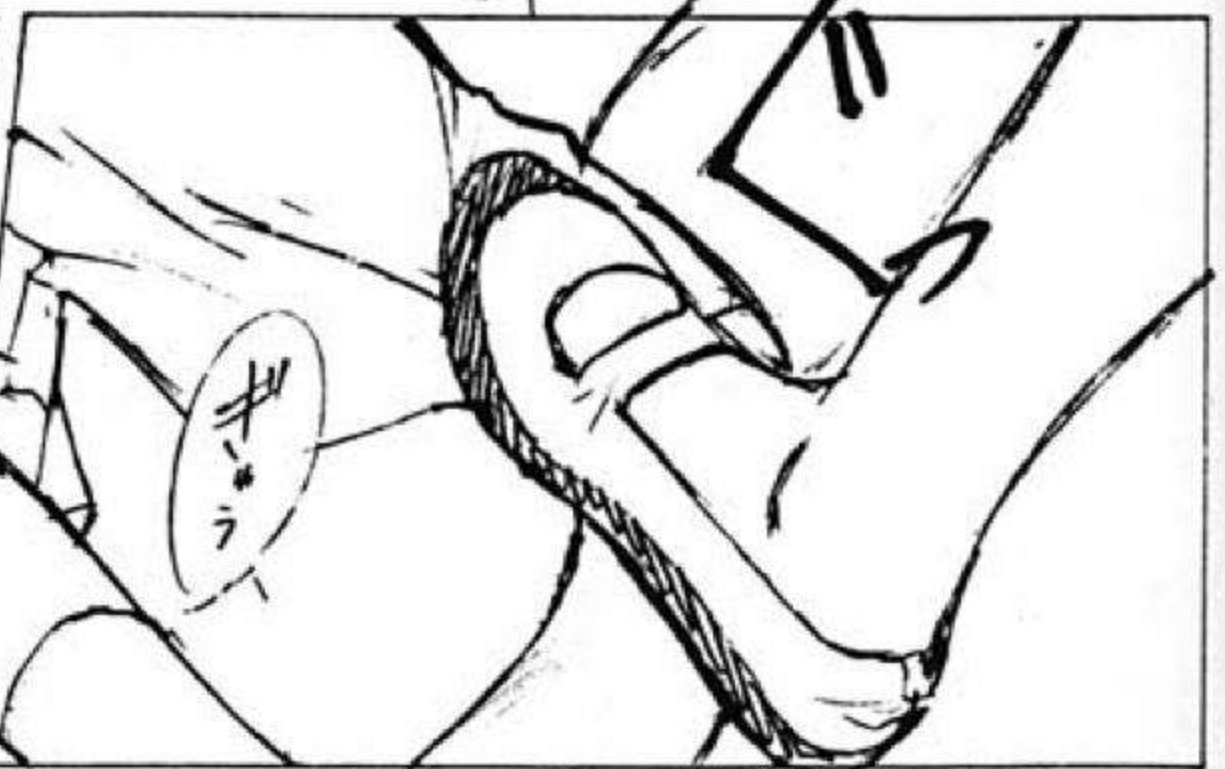


早……く
イキな……ナニと

マ……ン……タ……
ガ……マ……ン……レ……ン……の……よ

あ……馬……鹿……

はあ
はっ



硬……クン
イ……カ……セ……ミ……タ……タ……
自……分……で……動……か……な……ま……

お……メ……よ
ア……ス……カ

ん……

あんなにかいた

はー

はー

はー

あーあーあー

えーと
こころかな？

アタ
ナと
空んなナニよ





ど...う
やあらわかくて...
まもち...りりて
しま



今度
動いたら...
いってネラ



アスカの方が
フタモリだよ

インモリだよ



あ、は……あ

あ

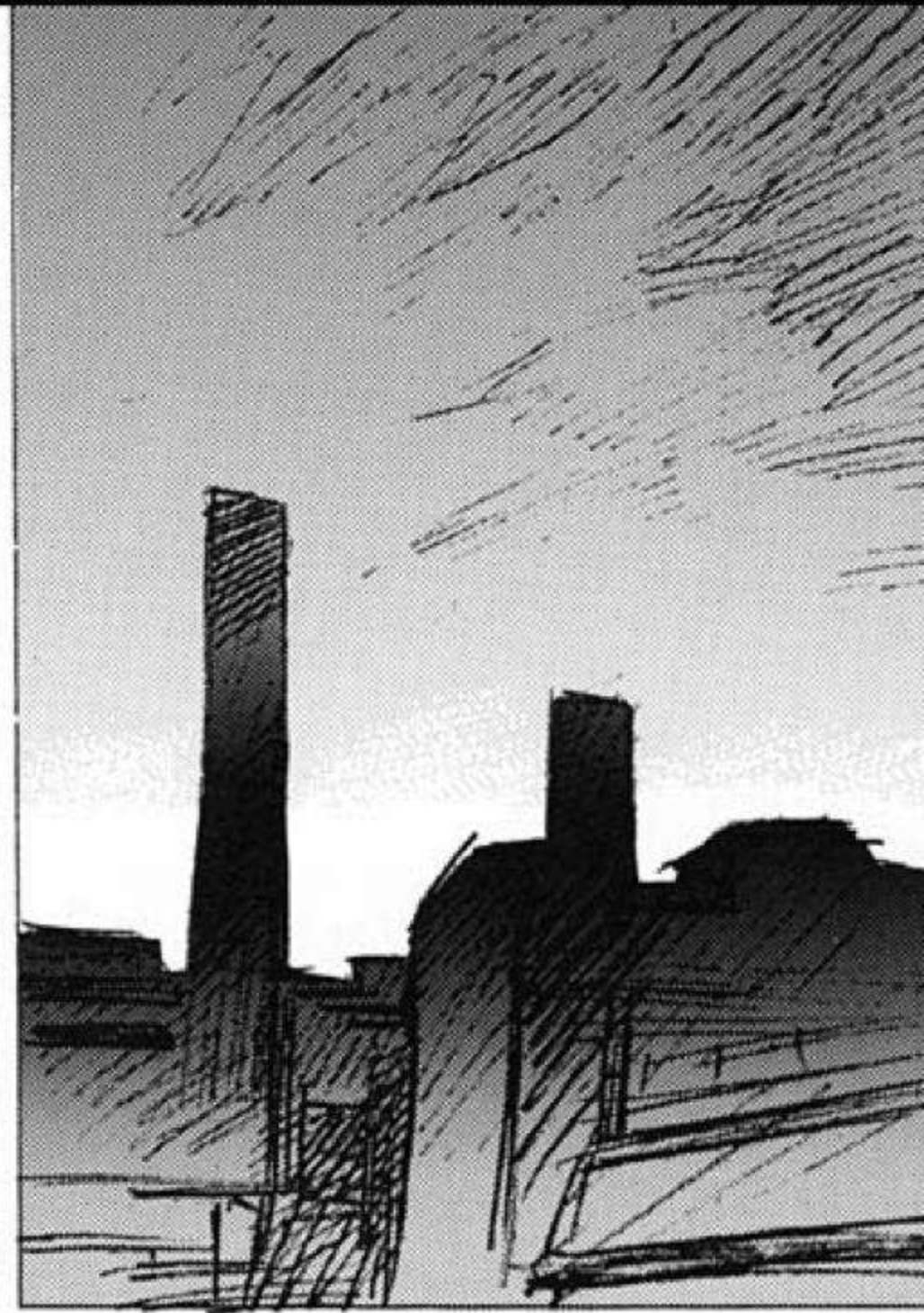
オ、アスカ
イ、ちゃん、たの

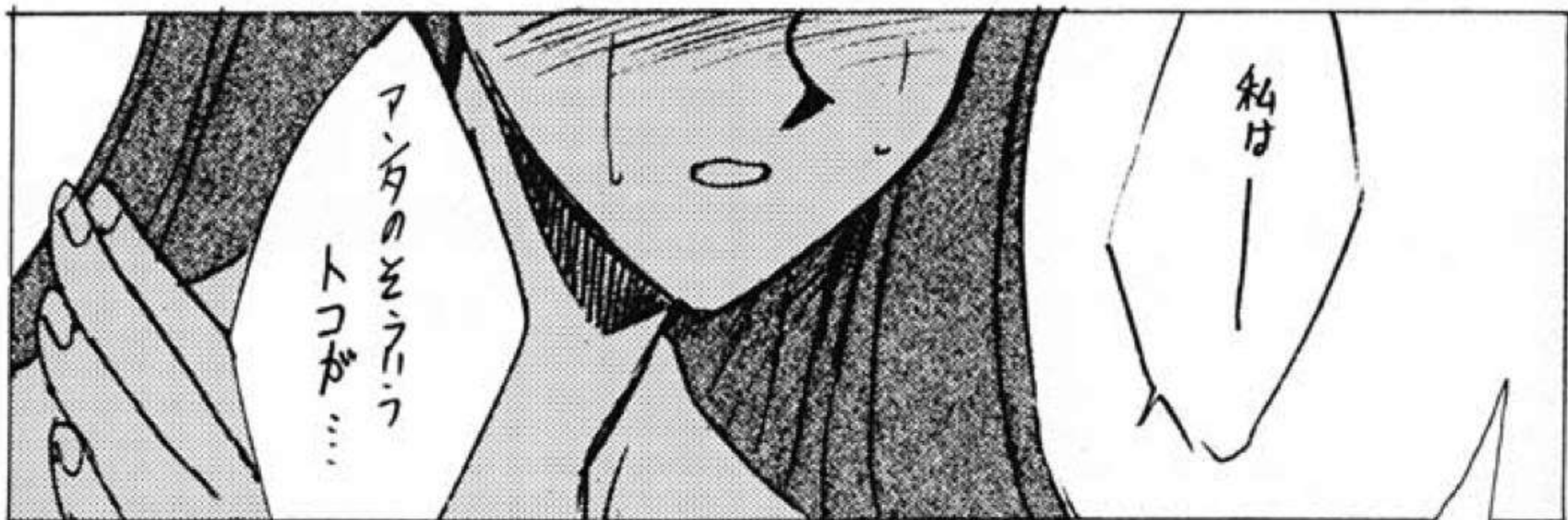
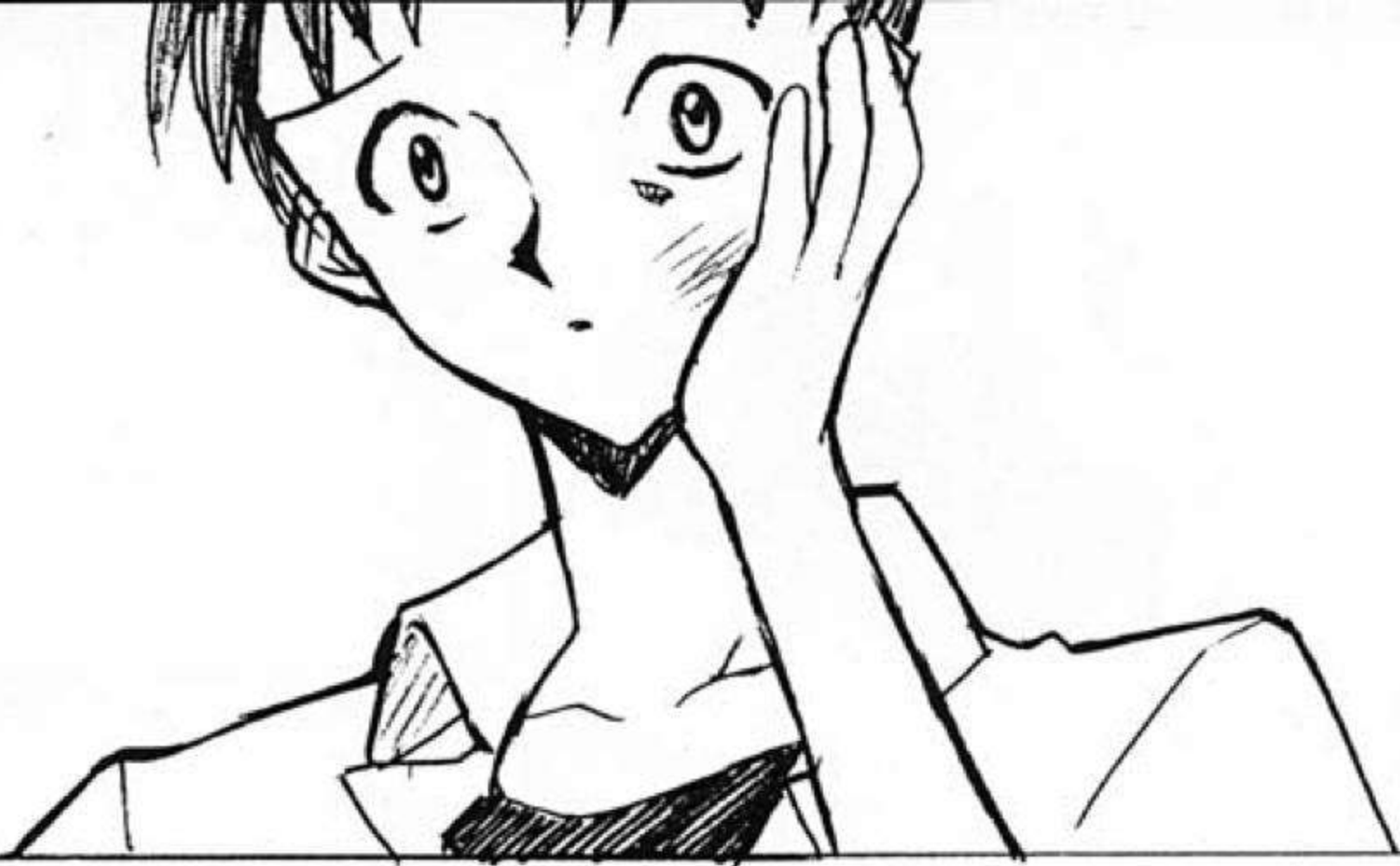
碇クニケ
またまたなのト……
クスクス

碇クニケの
またまたなのト……

ハハハハ

ニ、チキヤエ、アスカ、碇クニケ
綾波エカ
処、理、を、と、ま、り、あ、よ





055

その日
私ははじめて
ミンミンの前で泣いた——



おつり

又かさせる方法

庵野専用原作

ニセ渡辺ヒロシ

その日の監督

影であり、もっと直接的に言えば監督の分身である。よって、彼に苦痛を味あわせたり、気分を悪くしたりするような行為は慎まねばならない。監督には同性愛趣味は無いので、受け攻めどちらであってもやおい趣味は逆効果であろう。

惣流・アスカ・ラングレーは監督が語るころによると、本人から一番遠い存在であるそうだ。それゆえに、全くの他人ではないが、自分とはあまり関係ないだれかのセックスとして、監督の目には映るらしい。

軽いナルシズムと言うのだろうか？ この奇妙な官能性を、我々は利用しない手はない。

では、渚カヲルはどうなのだろうか？

これは非常に難しい。「許す者」「あらゆる者の兄」「使徒=Angel」としての側面を持つ彼は、いわば庵野監督の理想像の一つなのだとと言っても良い。

しかし、だからこそ、カヲルにセックスをさせることは非常に困難を伴う。庵野監督の世界観がそれを許容し得るのか、その答を我々はいまだ得ていない。

相関図上に乗ることのない、いわゆる端役のキャラクター達（もちろん、彼らだって大なり小なり監督の精神の影響下にあるのだが）を主要人物として用いた方が、もしかしたら監督の使用に耐えうるエロマンガができあがる可能性は高いかも知れない。

だが、それは、「そのキャラクターでなければならない理由」に希薄であり、「庵野専用」の当初の主旨とは反するものになってしまう事もまた、自明であると言える。

セックスそれ自体に関して言えば、フェラチオ、クンニリングスと言ったような、口唇セックスが好まれる傾向にあるようだ。これは、監督自身が認めるように、彼の精神段階が「口唇期=Oral Stage」であることに強く影響を受けているのだろう。

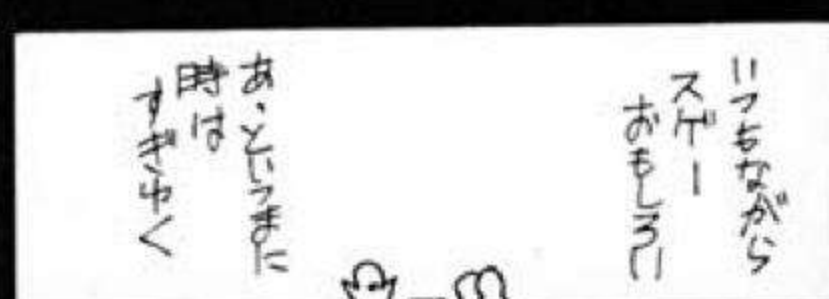
また、読みながらオナニーをする場合のことを考えて、作品にはある程度の長さを用意したい。監督の使用に耐えうる作品が完成し、パンツを脱いでこすりながら読んでいた時に、達する直前でマンガが終わってしまっは台無しというものだろう。

なによりも、エロは絵ではなく、シチュエーションこそであると庵野監督も拳を握って我々に説いた。みだりな大開脚よりも、それらしいセリフや状況を用意してこそその「庵野専用」であろう。

語るべき事はすべて語り尽くした。これが、庵野秀明監督に、エヴァンゲリオンエロパロでオナニーしていただくと言う企画「庵野専用」のすべてである。

この研究結果を元に、今度こそ庵野監督を満足させることのできる同人誌が現れることを切に望む。「何かイイ同人誌あったら買ってきて下さいよ。いやマジで」

貴重な時間を割いて我々に会って下さった監督は、ほんの1時間半ほどの間に、実に三度もそう漏らした。あの言葉は、きっと真実心からの声だったのだと、我々は思うのだ。



庵野監督を

我々のように失敗しないために

そして——数々の苦難を乗り越え、我々の英知の結晶たる、この同人誌「庵野専用」は、ついに完成した。

自らの生み出したキャラクターが登場するエロマンガをオナニーに使用する。この、究極の自己愛を手助けしようと言う、それこそが我々の当初の目的だった。

しかし、哀しいことに、我々の試みは失敗したと言わざるを得ない。

12月初頭、三鷹のガイナックス応接室にて本誌掲載のマンガを読んだ監督は、我々の眼前でイチモツを握ることはおろか、パンツの中で膨らませる素振りすら、結局のところ見せることはなかったのだから（ちなみに、途中でトイレに立つこともなかった。我々が帰った後のことまでは判然としませんが）。

そう。我々は失敗した。しかし、後続の者のすべてが、同様に失敗するとは思いたくない。

我々は、何かを間違っただけなのだ。

だからこそ、ここに「庵野監督に使用してもらおう」同人誌を作るためのノウハウを掲載する。これを読んだ同人作家各位、庵野監督に精液を放出していただく事を目的とした同人誌の製作に励んでいただきたい。

いつの日か、庵野秀明監督本人が、涙を流して喜ぶような、クオリティが高く、かつ、使用に耐えうる素晴らしい同人誌が出現し、監督に至福の時が訪れんことを。

この文章がそのための一助になれば幸いである。

顔かたちだけが似ていて、その内面が別のキャラクターは、もはや元のキャラクターではない。

それは見たこともない別のキャラクターであり、そのようなモノは使用に耐えないことは自明である。

よって、「庵野専用」製作の第一歩として、「庵野秀明宇宙におけるキャラクター相関図」を考えてみよう。

庵野監督の意識、無意識をX軸、ポジティブ面、ネガティブ面をY軸に取った2次元平面を構築してみよう。この4象限の各頂点に、非常にバランス良く配置される4キャラクターが存在する。

第一象限には、惣流・アスカ・ラングレー。

第二象限には、碓シンジ。

第三象限には、綾波レイ。

そして、第四象限には渚カヲルが、それぞれ配置される（下図参照）。

他人を意識し、それに対して積極的に認められようとするアスカと、人との接触を拒否するシンジ。

別段何かを意識するわけでもなく、それでいてすべてを否定するような冷たさを見せるレイと、すべてに対して（そう、自分の死に対してさえも！）寛容に笑みを見せるカヲル。

この四者は、全員が庵野秀明という個人の性格を、別の側面より強調したキャラクターなのである。

実際には、彼らだけではなく、四人の主要な大人のキャラクター——葛城ミサト、赤木リ

ツコ、加持リョウジ、碓ゲンドウの四者も同一の平面上に、先の四名とまったく対応するように配置することができる。だが、とりあえずは四人の子供達だけについて話を進めていこう。

下に示した相関図を見ながら考えれば、お互いがお互いに接する態度も、自ずと理解できるだろう。

「意識」して「ポジティブ」に振る舞うアスカにとって、「意識」して「ネガティブ」なシンジは後ろ向きな軟弱者であり、さらに「無意識」で「ネガティブ」なレイなどは、自分の意志を持たない人形のように見える。

「無意識」に「ネガティブ」な綾波レイは、他人と接する術を知らず、「無意識」に「ポジティブ」なカヲルは、レイに向かって「君は僕と同じだね」と言う。

この相関図から外れることは、「新世紀エヴァンゲリオン」の物語世界からのリタイアを意味した。「感情」というものを知り始めた綾波レイはN2爆雷と共に命を散らし、使徒撃滅の失敗、シンクロ率の低下によって自信を喪失し、ポジティブ性を失ったアスカはそのままひっそりと舞台を降りる。そして、シンジがネガティブ性を破棄し、「僕はここにいてもいいんだ！」と叫ぶことによって、「エヴァ」は終焉を迎えたのだった。

繰り返そう。キャラクター性が違ってしまった瞬間に、それはもとのキャラクターではあり得ない。

そのようなものは、「エヴァ」のエロパロではないという点において、「庵野専用」としては無価値である。

「キャラクター性の保持」

この点だけは何かあると忘れずに、しっかりと守ってもらいたい。

それでは、実際に庵野秀明監督がピクリと来るのは、どのようなマンガなのだろうか？

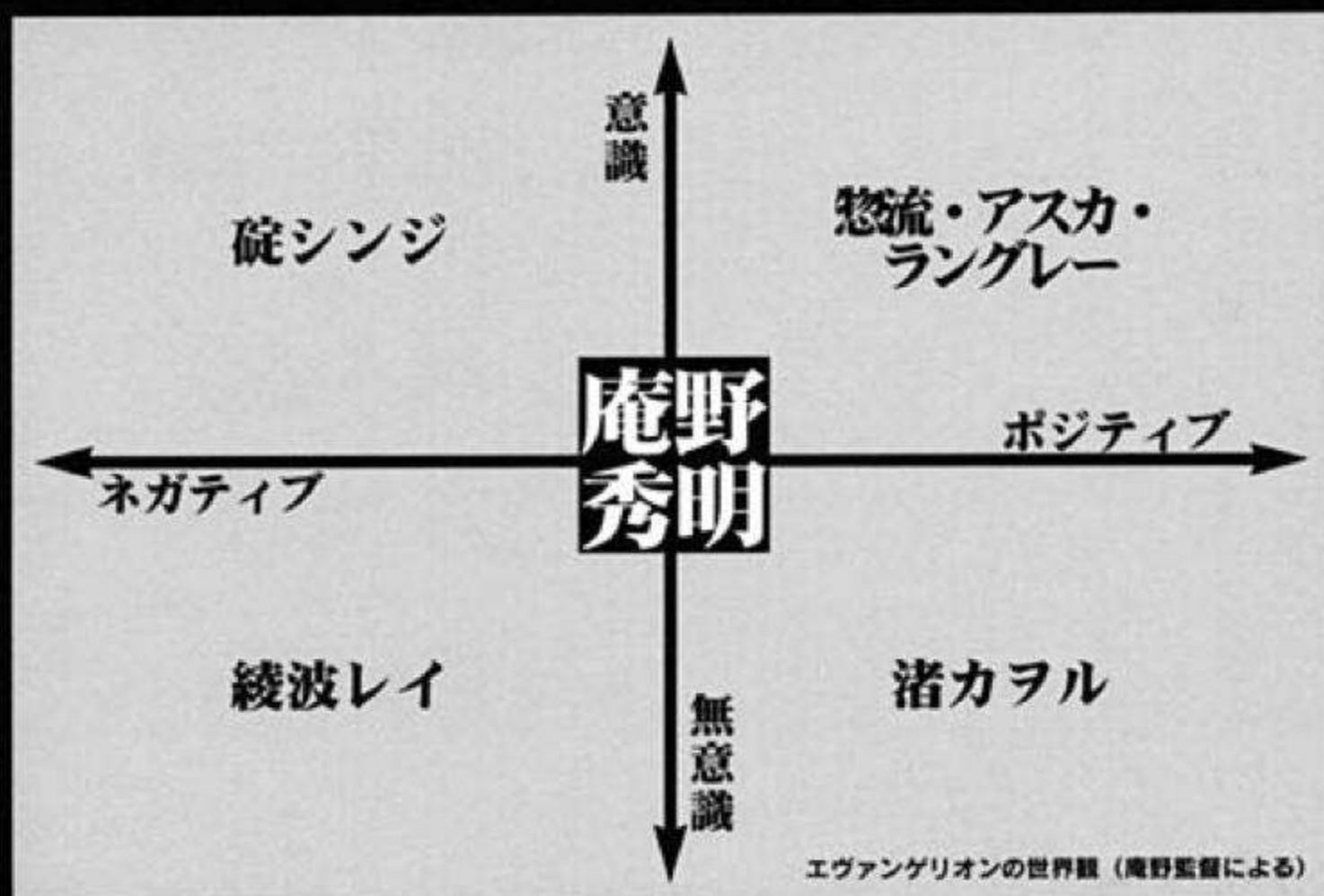
まず、キャラクターで言えば、綾波レイは避けたい。

「無意識」「ネガティブ」という属性を持つ彼女は、いわば庵野監督の内面の、本人が一番近く、かつ、本人が一番イヤな部分であると言える。

庵野監督自身も「綾波レイでは抜けぬ」と語っている以上、レイを主軸に据えた作品では監督の海綿体には血が集まらないだろう。

もちろん、それだからこそ逆に、綾波レイを題材に、監督を興奮させる作品ができあがる可能性もないのではないのだろうが、その道は非常にけわしいとだけ、忠告しておく。

碓シンジ。彼はいわば庵野監督の一番の投



アスガ日記

AUTHOR
ニ渡辺ヒロシ
WATANABE HIROSHI FAKE
ILLUSTRATOR
希有馬
KEUMA

1

あたし、世界を守る戦士なんです。

「セカンド・チルドレン」って言って、人造人間エヴァンゲリオンに乗ることができ、世界で二番目の人間なんです。

苦しいはずのトレーニングも楽々こなして、あたし、これから日本に行くところ。

「どうしたんだい、一人で物思いかい？」

日本に向かう国連の空母のデッキのところで、海を見ていたあたしに、そう言って優しく声をかけてきた人がいた。振り向かなくても判る。

ネルフドイツ支部に所属している加持さん。

あたし、日本人の血が混じってるし、日本語もべらべらだから、この人とはよく話すんです。

それに、とつてもかっこ良くて、あたしの憧れの男性なんです。

でも、あたしは思っていたことと全然違うことを言ったんです。

「今日……サードチルドレンが来るんでしょ？ 別に来なくてもいいのに……護衛なんて」

「まあまあ……こんなところで使徒に襲われたらひとたまりもないんだ。ありがたく申し出は受けようじゃないか」

「だって、あたしと式号機さえあれば、別に平気だわ」

あたし、そう言って頬を膨らませて、加持さんの方を向いた。

加持さんの前では、どうしても子供っぽい感じになっちゃうんで、ちよっぴり恥ずかしい。

「たーいくつ。ねえ、加持さん。お部屋に戻りましょ」

あたしがそう言うと、加持さん、無精ヒゲをなでながら、「仕方ないな」

って、笑った。

この笑いが、あたし、とても好きなんです。

加持さんの船室に入ると、ベッドの上に勢い良く腰を下ろして、あたしは加持さんに、訊いたんです。

「ねえ、加持さん。日本ってどんなところ？」

実はあたし、日本のことは本とかで読んだ知識しかなくて、どんなところなのか興味があつたから、船の中にいるうちに加持さんに訊いておこうと思ったんです。

加持さん、少し考えてからゆっくりと答えた。

「そうだなあ、「ミシシシ」してて、家は狭くて、みんな時計を見ながら早足……」

なんだかあまりおもしろそうなところじゃないみたい。あたしがそう思っていると、加持さんはいたずらっぽく笑って、こう、言ったんです。

「でも、きれいな女性が多いな。うん、そう言う意味ではいいところだよ」

あたしは加持さんが好きなのに、加持さんはあたしのことを一人前の女としてみていないのか、時々こういう事を言うんです。

自慢じゃないけれど、あたし、発育はいい方だと思う。

胸も大きいし、アソコにヘアーもちゃんと生えてるから、体はもうすっかり大人なんです。

あたし、14歳なんだけれど、海外には飛び級っていう制度があつて、勉強のできる人間はどんどん先に進めるから、もう大学を卒業しちゃってるんです。

まわりのクラスメートはみんなハイティーンだから、いろんな話をキャンパスで聞いた。

だから、大人の男女がどういう事をするのかも、ちゃん

と知っているんです。

それなのに、加持さんはあたしのことを子供扱いするから、つかつかとなっちゃって、あたしは立ち上がって言ったんです。

「どうしていつも、加持さんはあたしのことを子供扱いするの？」

加持さん、困り顔で、

「子供扱いなんてしてないさ」

「だったら、どうしてあたしの前で女の人の話ができるのよ。あたしってそんなに魅力ない？」

「そんなことはないよ。アスカは充分に魅力的さ」

加持さんだったらどう見てもその場しのきな感じの台詞を言うもんだから、あたし、ちよつといたすらしてやろうと思って、

「じゃあ、キスして」

って言って、目を閉じた。

ため息の音が聞こえた後で、加持さん、あたしの肩に手を置いて、そつとキスしてくれたんです。

加持さんのキスはとても上手で、あたし、ほうつとなつちやう。

だからあたし、加持さんの大きな掌がワンピースの胸に乗せられてるのを、しばらく気が付かなかった。

ようやくくしに気が付いたあたしは、ちよつと驚いて、目を開けて唇を離してから、言ったんです。

「加持……さん？」

加持さん、真面目な顔をして、

「いつも君は子供扱いするなと言っからね。じゃあ、ちゃんとした大人の女性として扱ってあげるよ」

と、言った。

言いながら、加持さんの手があたしのワンピースの背中

にのびて、うなじに触れた。

ああ、とうとう大人の仲間入りをするんだわ。

ついにあたしも処女を捨てるときが来たのね、って、ときどきしてる。

「ちよつと……怖いわ」

加持さんが背中のボタンを外して、ワンピースを床に落としてから、あたしをベッドに寝かせた。

こんなことがあった時のために、あたし、下着はちゃんとお揃いのピンクの、かわいい物で揃えておいたんです。

でも、やっぱり恥ずかしい。

「加持さん、あんまり見ないでえ」

真っ赤になったほつべたを押さえながら、あたし、そう言った。

でも、加持さんは許してくれない。

あたしのすべすべでムッチリした太股を、加持さんの掌がツーツと、上に、下に……

「ああ、ああ。加持さん、キモチいい」

思わず声が出ちゃう。

でも、加持さんだったら、大事なところだけはなかなか触ってくれない。近くまでは行くのに、そこでまた遠ざかってしまうんです。

あたし、じれったくなつちやって、腰をクイクイと動かして、自分から加持さんの手にアソコを押しつけようとした。

そうしたら、加持さん、ちよつと笑ってからかうみたい

に、

「アスカはいやらしい女の子だなあ。アソコからジュースが溢れて、下着が透けて見えちゃうくらいだよ」

って、エッチなことを言っんです。

あたし、真っ赤になるけれど、アソコがジーンとしびれ

たみたいになつちやって、腰をこすりつけるのを止められないんです。

でも、加持さんは手を引いて、あたしをじらしながら、ブラジャーを外した。

すると、発育途中のバストが、ぶるんとこぼれた。あたし、まだまだ成長中だから、最近ブラジャーがきつい感じなんです。

白い胸に赤く、ブラジャーの跡が付いている。

「かわいそうに。押さえつけられて窮屈だったんだね」

加持さん、そう言いながら、あたしのお乳をいたわるように優しくもみほぐしたり、ピンカンな部分を吸ったりしている。

と、そのうち、加持さんの手がパンティにかかった。

「やっぱりいや、恥ずかしいわ」

と、あたしは言って、加持さんの手を押さえようとしたんだけど、

「大人の女性になるんなら、恥ずかしくても我慢しなくちゃ」と、言われちゃったんです。

それに、本当は感じちゃって力も入らないから、本気で抵抗しているわけでもないし。

そして、いよいよ下着を脱がされて、あたし、生まれたままの姿になつちやった。

加持さん、さつそくあたしの大陰脣を指で広げて、その奥をいじり始めたんです。

二本の指でクリトリスをつまんだり、顔を近づけてペロリペロリとやつたり……

ああ、すく、イイ。

「アスカは感じやすいんだなあ。ほら、もうこんなにびしょびしょで、準備オーケーだよ」

そう言いながら、加持さんがスポンを脱いで、あたしの

前にほろりと……

あーっ、大きい。

始めて見る男の人のアレは、大きく上を向いていて、なんだか怖い。あたし、思わず目を閉じることも忘れて、ソレをまじまじと見つめてしまった。

「ほら、これが今からアスカの中に入るんだよ」

そう言いながら、先っぽでワレメの部分を、縦に……

先端がクリトリスを刺激して、とても快感。

くちゅくちゅといやらしい音が聞こえて、とても恥ずかしい。

あたし、思わず自分の顔を手で覆ってしまった。

でも、指の隙間から、加持さんのアレは、しっかり見えているんです。

上を向いていきりたっていて、まるでどこまで熱気が伝わって来るみたい。

「あーっ、でも、怖い」

男の人のモノがそんなに大きいなんて知らなかったから、あたし、ちよっと怖くなって言ってしまった。

「駄目、駄目。そんなに大きいのは、入りっこないわ」

あたしはいいややしながらそう言ったんですけれど、加持さんは、

「大丈夫。アスカのここからいやらしい液がたくさん出てくるからね。ちゃんと入るよ」

って言つて、更にアレでクリトリスを刺激し続ける。

ああ、いい。

しびれたみたいになっちゃって、あたし、思わず足の力を抜いてしまった。

先端が滑り込んでくるのが、判る。

それだけでも、とっても痛いんです。

まるで、体が二つに裂けちゃうみたい。

「ああ、駄目。やっぱり無理よ」

あたし、思わず泣き声を上げた。

でも、加持さん、そんなあたしの叫びは無視して、更に腰をググーッと……

と、加持さんのアレの先が、壁にぶつかって止まった。

処女膜だわ、と、あたしは思った。

「もうちよっと痛いかも知れないけれど、我慢するんだよ」と、加持さん。

あたし、何しろものすごく痛くって、足をじたばたさせて、腰をねじって、加持さんから逃げようとした。

「痛い、痛いわ」

あたしのお尻が、ベットの上でズスズ、と、上に……それを追いかけて、加持さんのお尻が、ズスズと……

ベットを動きすぎて、あたしの頭が壁にこっん、とぶつかった、その時なんです。

「コンコン、と、ドアを誰かがノックした。」

加持さんがヒタリと動きを止めて、上半身を起こして立ち上がって、ドアの外に声をかけたら、

「すみません、ネルフ本部よりの使者が届きましたので、至急デッキまでお越し下さいとのことですよ」

と、返事が聞こえた。

返事は英語なんですけど、あたし、英語もべらべらだから、何を言っているのかちゃんと判るんです。

ドアを開けないで、外に向かってお礼を言ってから、加持さん、こつちを向いた。

「やれやれ、大人になるのは先延ばしのようなだね」

あたしは、痛い思いをしないで済んでホッとしていたんですけれど、本当はちよつぱり残念な気もしていたんです。

でも、このまま裸でいたら、なかなか出てこないのを不審に思った外の軍人さんが、いきなり扉を開けないとも限

らないので、あたしも急いで服を着た。

そんなわけで、あたし、まだ処女なんです。

2

あたし、セカンド・チルドレンなんです。

日本に来てすぐに、あたし、中学校に編入されることになった。

本当はドイツで大学を卒業しているから、今更中学校なんて行く必要はないんだけど、そう言う決まりだから仕方ないらしいんです。

それに、この学校には、あたしの他の「チルドレン」も通っているんです。

でも、二人ともあたしよりシンクロナ率も低いし、別に、大した相手じゃない。

それに、いつも難しい顔をして、何を考えているかよく判らないんです。

日本人ってみんなそうなのかしら。

あたし、そう思っていたんです。

そんなある日、あたし、クラス・リーダーのヒカリに話しかけられた。

「惣流さん、今日の放課後、惣流さんの歓迎パーティーをやると思うの。いいかしら？」

海外ではホームパーティーみたいなのは日常茶飯事だから、あたし、てっきりそう言うのだと思って、

「ワオ、嬉しいわ。ぜひ出席させてもらいます」と、言った。

そして、授業が全部終わってから、あたし、ヒカリに連れられて、学校のハズレの体育倉庫に行った。

ここはずいぶん前に、新しい体育倉庫ができて以来、誰

も使っていないんだそうです。

「こんなところでパーティができるのかしら、と、あたし、ちよつと思つた。」

でも、日本は住宅事情が悪いそうだから、それも仕方ないのかも知れない。

「開けてちょうだい、惣流さんを連れてきたわよ」

扉に向かつて、ヒカリがそう言った。

すると、ガチャガチャとカギが開けられる音がして、扉がスライドして開いた。

「さあ、パーティ会場へどうぞ」

ヒカリがそう言ったから、あたし、中に入ったんです。

中に入った途端、なんだか変な匂いがした。

ちよつと生暖かい匂いなんです。

中は暗くて、何かあるのが最初、よく判らなかつた。

でも、人が何人が、中にいるのは判る。

それで、とんとん前に歩いていったんです。

ようやく目が慣れてきて、中がどうなっているのか判つ

たあたしは、思わず、あつて言つてしまった。

だって、中では、クラスの男の子や女の子が、裸になつ

て絡み合っていたんです。

ファースト・チルドレンの綾波レイや、サード・チルド

レンの碓シンジもいる。

ああ、入っているのが、見える。

それに、舐めたり、舐められたり、みんな1対1じゃな

くて、もつと複数で……

それで、あたし、思わず、

「な、何やってるのよー」

つて、叫んでしまった。

後ろからあたしの肩をつかんで、ヒカリが、

「あら、惣流さんは日本に来たばかりだから、知らないのね。

日本では中学生がセックスをするのは、ごく普通なのよ」

と、言った。

そうなのかしら。

あたし、そんなことははじめて聞いたんです。

でも、日本人は慎重深いつて聞いていたから、もしかし

たら、外国には秘密にしていただけなのかも知れない。

パーティって、このことだったんだわ。

でも、あたし、処女だから、セックスは怖い。

だから、

「でも、アタシ、バージンだから、怖いわ」

と、言った。

すると、

「だったらなおさら、パーティに参加する必要があるわよ。

今時バージンの中学生なんて、いないんだから」

と、ヒカリが答えた。

答えながら、ヒカリの手は、もうあたしの制服を脱がそ

うとしてる。

小さくて細い手が、制服の胸元から差し込まれて、あた

しのバストをもみほくすんです。

ああ、この子、とっても上手。

女の子だから、同性がどこをどうすると気持ちいいのが、

よく判っているのかしら。

あたし、思わず声が出してしまった。

すると、

「惣流さんの声、かわいいわ。乳首も小さくてピンクだし、

とってもきれい」

と、言いながら、ヒカリがブラジャーをずらして、あた

しの胸を直接触るんです。

ヒカリの指が、あたしのサクランホ色の乳首を、つまん

で、「コリコリつと……

それだけで、あたし、背筋に電流がビーンと走ったみたいになつちやつて、

「ああ、駄目よ、やっぱり、駄目」

と、言つたんです。

でも、ヒカリは、

「あら、だったら、どうしてそんな風になつてるのかしら？」

と、言つて、あたしのスカートをまくり上げた。

あたし、スカートの中からトロトロといやらしい液体が

溢れてきていて、バンティをととても濡らしていた。

それどころか、エッチなジュースは太股を伝つて膝のあ

たりまで流れていたんです。

あたし、とっても恥すかしくつて、身もだえしてしまつ

た。

「やめて、恥すかしいわ」

「恥すかしいことなんかいいわ。だって、あたし達、クラス

メイトじゃない。日本じゃこれくらいのスキンシップ、当

たり前よ」

ヒカリの言葉に、みんな、うなずいている。

そう言われると、あたし、そうなのかな、つていう風に

思つちやうんです。

それに、とっても気持ちいいし。

そつとつしているうちに、あたし、マットの上に覆かさ

れた。

足を持ち上げられて、バンティを、くるくるつと……

男子生徒達が、みんな覗き込んでくる。

「よく見えないな、もつと広げてくれよ」

「やっぱりバージンだけあつて、きれいなアソコをしている

なあ」

「アソコの毛も髪の手と同じ色なんだな」

みんな、好き勝手に批評している。

その間、あたし、ずっと足を広げたままなんです。
みんなの視線が刺さって、アソコが熱いくらい。
そのうち、

「誰が忍流さんの処女膜を破るんだ？」

と、誰かが言い出した。

結局、サード・チルドレンが、その役に決められたみたい。
い。

あたしの前まで来て、ズボンとパンツを脱いだ。

サードのアレ、最初は下を向いていたんだけど、
ファースト・チルドレンが口にくんで、ゆっくり出し入
れすると、見る見るうちに大きくなって、天井を向いた。

加持さんよりは小さいみたい。

だけど、それでも大きいんです。

あたし、加持さんの時の痛さ、思い出した。

加持さんの時は、最後まで入らなかつたけれど、あんな
に痛かつたんです。

だから、加持さんより小さくても、もっと奥まで入るの

だったら、きっと、すごく痛いに違いないわ。

あたし、そう思ったんです。

それで、あたし、怖くってお尻を振ってイヤイヤをした。

でも、あたしの体、みんなに押さえられて動かない。

それに、ヒカリや他のクラスメートが、体を押さえなが
ら胸やお尻や、アソコに手を伸ばして来るんです。

乳首や、背筋や、クリトリスや、腰口とお尻の穴の間の

あたり、鎖の戸渡りのところを同時になでられている。

それに、腰にも女子生徒の細い指が挿入されている。

しかも、二本も。

その二本が、別々にあたしのヒタヒタの内側を、ぐるぐ
るとかきまわすんです。

ああ、すくくいいい。

あたし、思わず、怖いのも忘れて、

「アア、アッ、アアッ」

と、叫んでしまった。

そんな風だったから、いつ、指が抜かれて、陰茎に
代わっていたのが、全然気が付かなかった。

目を開いて見下ろすと、あたしのアソコに、すぶりと、

サード・チルドレンのアレが突き刺さっているんです。

ああ、あたし、処女じゃなくなったんだわ、って、思っ
た。

加持さん、ごめんなさい。

加持さんにあげるはずだったバージン、なくなってい
ました。

でも、思ったより、痛くなかつたんです。

それに、サードが腰を動かし出すと……

「あーっ、き、気持ち、いいい」



アレの先の方って、少し、太くなってるとしょ。

そのところが、腰の内側を削るみたいには刺激するんです。

「二、三回往復されただけで、あたし、イってしまった。

でも、サードの動きは止まらない。

あたし、思わず、両足をサードにからめて、引き寄せ、動きを止めようとした。

でも、そのせいでサードの腰が、今までよりも深く突き込まれちゃって、すっかり逆効果。

ああ、子宮の入り口に触っている。

「コツコツと、ノックされているみたい。

上下が判らなくなるくらいに、快感。

あたし、すぐにまたイってしまったんです。

と、あたしの顔の前に、別の男子生徒がまたがって、

「さあ、くわえい」

と、言った。

「クラスメイト同士のコミュニケーションなんだから、ちゃんとして上げなきゃ駄目よ」

って、ヒカリが言うんです。

おそろおそろ口を開けたら、いきなりアレが口の中に……

それと同時に、ヒカリがあたしの右手を取って、自分のスカートの中に入れた。

中、ノーパンなんです。

それに、すごく濡れている。

ヒカリ、

「ね、ドイツではこういう風にオナニーするのが、教えて？」

と、あたしの耳元で、囁いた。

だから、あたし、自分でする時みたいに、小陰唇をこすったり、クリトリスをつまんだりしたんです。

ヒカリ、気持ちよさそうに声を上げながら、

「惣流さんはハーシジンだったから、指を入れたりはいしないのね」

って、くすくす笑った。

だから、さっき自分がされていたみたいに、二本の指を一気に奥まで挿入して、かき回してみた。

「ああ、そうよ、いいわ」

そう言いながら、ぐいぐいと指を締め付けて来るんです。痛いくらい。

と、サードの動きが激しくなって、

「も、もう、いきそう……」

と、囁くような声で、言った。

あたし、

「中に出さないで、お願い」

って言って、押しのけようとしたけれど、

「うーん、で、出る」

と言ったかと思うと、ほとんど同時に、ドクドクドクと、あたしの中に思いつきり、出してしまった。

あたしも、ほとんど同時に、頭の中が真っ白になってしまっ

て、
「イ、イクーッ」

二度目の絶頂を、迎えてしまったんです……

3

あたし、セカンド・チルドレンなんです。

14歳だから中学校に行かなくちゃいけないんだけど、それ以外の時はほとんど、訓練。

人造人間エヴァンゲリオンに乗ることが出来るのは、選ばれた人間だけで、今のところ、3人しか、いない。

それに、その3人だって、厳しい訓練が欠かせないんです。

あたし、14歳でドイツの大学を卒業したし、まわりには天才少女と呼ばれてるんです。

だから、訓練とか、いらなと思うんだけど。

それに、どうせあたしが一番成績がいいんだから、免除してくれても良さそうな物なのに。

でも、決まりだから、そうは言ってももらえないんです。仕方がないから、あたしもちゃんと訓練に参加するんだけど。

けど。

でも、どちらかというところ、終わってからのほうが楽しみなんです。

ネルフの中には、大きな浴場があって、訓練の後はそこで、汗を流す。

ほとんどあたし一人きりで、広いお風呂が貸し切りみたいな状態になっていて、とっても気持ちいい。

ドイツにいた頃は、こんなに大きなお風呂に入ったことはなかったから、初めて入ってからは、一番のお気に入りなんです。

今日も、訓練の疲れをお風呂で流しているところだった。がらりと、入り口から音がした。

誰か、入ってきたんです。

湯気のせいで、誰だかまでは判らない。

三人いるのだけは、判る。

近づいてきて、姿が見えるようになって、あたし、あつと声をあげた。

オペレーターの伊吹マヤさんが、同僚の青葉シゲルさん、日向マコトさんと一緒に、入ってきたんです。

三人とも、全裸。

男の二人は、股間の物を隠そうともせずに、ブラブラ

させている。

あつ、中学生の物よりも、大きい。

あたし、手めくいて体を隠しながら、叫んだ。

「ど、どうして、男の人と一緒に入っているんですか？」

すると、青葉さん、

「君は日本に来て間もないから知らないのも無理はないが、日本には混浴という風習がある」

「コンクッ」

「男女が同じ風呂に入っていくとさだよ。そうやって、

コミュニケーションを取るんだ。錦絵とかでも、男女が一

緒の風呂に入っているのを見たことがあるだろう？」

確かに、以前見たウタマロでも、男女が一緒に入浴して

いたような気がする。

だから、そうなのかな、って思っちゃった。

三人、めいめいに体を洗って、あたしの近くに、ザブン

と……

確かに、みんなで一緒にお風呂に入るのって、なんだか

気分がいいんです。

あたし、すっかりくつろいで、

「でも、他の人たちとこのお風呂で一緒になったのって、今

日か初めてだわ」

と、言った。

すると、日向さんが、

「君は日本に来て間もなかったし、だから、みんな気を使っ

ていたんだよ」

と、言うんです。

そういうものなのかしら。

あたし、体を洗おうと、湯船から出た。

すると、日向さん達、一緒に上がって、

「背中を流してあげるよ。日本では、コミュニケーションの

証として、背中を流しあうものなんだ」と、言った。

あたし、別に反対する理由もなかったんで、

「ありがとうございます」

と言って、壁際の椅子に座ったんです。

日向さん、スポンジを手にとり、セッケンをこすりつ

けて泡立てると、あたしの背中を洗い始めた。

セッケンのすべすべした感じが、背骨にそって広がって

いく。

それが、気持ちいいんです。

他の二人も、隣に座って、背中を流し始めた。

日向さん、手桶に取ったお湯で、あたしの背中のセッケ

ンを洗い流しながら、

「さあ、背中が終わったからね。次は前を洗おう」

と言って、向かい合わせになろうとした。

あたし、びっくりにして、

「え、いいです。自分でできますから」

と、言った。

だって、みんなスツポンボンだから、向かい合わせ

になったら丸見えになっちゃうんです。

恥ずかしいわ。

でも、日向さん、許してくれない。

「駄目だよ、背中だけ流させて、前を流させないというのは、

日本ではとっても無礼なこととされているんだ」

って、言うんです。

あたし、仕方がないから観念して、前を向いた。

日向さん、今度はスポンジじゃなくって、直接手にセッ

ケンを握りつけている。

「前はピンカンな場所が多いからね。スポンジじゃあ刺激が

強すぎるから、素手を使おう」

そう言って、掌で包み込むようにして、胸を……

ただ触られるよりも、セッケンのぬるぬるした感触のせ

いで、とても快感。

あたし、思わず、

「あつ、あつ」

声をあげてしまった。

でも、日向さん、そんなのは聞こえない風に、胸を洗い

続けているんです。

あたし、アソコがジユンってして来ちゃって、思わずも

じもじしてしまふ。

すると、胸を洗い終わった手が、とんとん下の方に降り

てくる。

いやだわ、アソコからいやらしい液体がにじみ出ている

のが、気付かれちゃう。

そう思って、太股を固く閉じていると、

「さあ、下の方を洗わなきゃいけないからね。力を抜いてこ

らん」

って、言われた。

あたし、無礼に当たってはいけないと思って、足の力を

抜いた。

そこに、日向さんの手が、ツーツと……

「おや、なんだかすくくめるめるしているなあ」

アソコを洗いながら、日向さんが言った。

あたし、恥ずかしくって、

「違います、それ、セッケンのせいなんです」

と、ごまかした。

その時、腰を向いて、あたし、マツとなった。

青葉さんのアソコを、足の間にひさまきつけた伊吹さんが、

奥までくわえているんです。

あーっ、すくい。

青葉さんの、大きくなって。

太くて黒いおちんちんが、伊吹さんの口から、出たり入ったり、してる。

ツバでヌラヌラと光っていて、とてもいやらしい。

あだし、目を離すことができなかった。

と、あだしが見ているのに気が付いて、伊吹さんがアレから口を離して、言った。

「うっやっやっ、お口できれいにしておけるのが、相手を最高に敬っている証拠なのよ」

日向さんも、

「そう。相手に敬意を払っているから、アソコを舐めたりもできるんだ」

と、言いながら、お漏で胸やお腹やアソコのセッケンの泡を流しているんです。

流し終わった日向さん、あたしのアソコに顔を近づけて、舌でアソコをへろへろとし始めた。

クリトリスを吸ったり、腰に舌を入れてきたり、するんです。

あだし、奥の方からとんとん愛液が出てくるの、止められない。

とんとん溢れてくるジュースを、日向さん、舌ですくって飲んでる。

「ごっしたんたろう、さっき流したはずなのに、まだこんなにヌルヌルしているよ」

と、日向さん。

ああ、恥ずかしいわ。

「セッケンが、奥の方まで入っていたのかしら。きっとそうだよ」

あだし、そう言っただけでまがそうとした。

腰では、いつの間にか、青葉さんの上に、伊吹さん

がのっかっている。

こっちにお尻を向けているから、アソコに陰茎が突き刺さっているのが、よく判るんです。

出たり、入ったり、してるのが見える。

あれでも、洗っているのかしら。

あたしの考えを見透かしたように、日向さん、

「ああやっやっ、指では届かない奥の方の汚れを掻き出しているんだよ。昔は身分の高い女性しかやっやっしてもらえなかったんだ」

と、説明した。

確かに、いやらしい汁が合体したところからあふれ出てきているのが見えるんです。

日向さん、あたしを一回立たせて、鏡の前に手を突かせた。

日向さんに向かって、お尻を突き出している格好なんです。

「君も体験してみるといい。さあ、足を開いて」

言われて、あだし、足を開いた。

あたしのムッチリしたお尻を、手で開いて、腰口に陰茎をあてがって、

「じゃあ、内側をきれいにしよう」

そう言っただけで、ズーンと……

ズーンと、脳天までしびれるみたいな、快感。

後ろから入れられるから、普通とは違うところに当たって、それがまた、キモチイイ。

あつ、でも、気持ちよがってちや駄目なんだわ。

だって、これ、セックスじゃなくなって、あくまで体を洗ってもらってるだけなんです。

に、腰を、グルリと回転させた。

回転させながら、ズンズンズン……

それで、あだし、どうしても我慢できなくて、思わず声をあげてしまった。

「ああ、いい。いいわ」

あだしの方からも、腰をもっと突き出して、奥まで結合するようにした。

日向さん、腰の動きが早くなったかと思うと、

「うっ、もう、出そう」

と、言った。

そうして、アレを引き抜いて、

「中に出してはせつかく洗ったのが台無しだから、外で出すんだ」

と、言いながら、右手で自分の物をしぐらして、

「うっ、出る、出る」

あたしの背中に、白いザーメンを大量に放出したんです。

同時に、あたしも絶頂に……

その後、今度は青葉さんの棒で腰内を洗ってもらったり、

逆に青葉さんや日向さんのアレを口できれいにしておいたら、伊吹さんとお互いのアソコを舐めっこしたりして、あ

あ、のほせてしまうまで、お風呂の中で日本の風俗について教えてもらっていたんです。

その日以来、お風呂で他の人と会うことも多くなった。そう言う時は、必ず、教えてもらったとおりに日本式のコミュニケーションをするんです。

おかげで、毎日の訓練がとても楽しい。

昔の人が、「風呂は命の洗濯」っていった意味、今ならあ

あ、よく判るような気がするんです。

奥

●庵野専用

発行者 ; 希有馬
編集 ; 遊び人の伸さん
発行日 ; 1996.12.29 初版発行
印刷所 ; コーシン出版
(TEL;03-3964-4511)

連絡先 ; [REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

ご意見ご感想、叱咤激励慎んで
お待ちしております。

特に『俺はイケた。イケない』
『こうすれば監督はイケるのではないか？』
『監督がイケそうな同人誌
を知っている』『俺が庵野をイカし
てやる』等のご意見は、責任をも
って庵野秀明監督自身に転送いた
します。ただし、その返事につい
ては保証できません。

ごめんなさい。

付

